I-O DATA

WN-B11/USBS 取扱説明書

122048-01

【呼び方】

呼び方	意味
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating System、 Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows	Windows XP,Windows 2000,Windows Me,Windows 98の総称

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
   したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
6) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
7) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
8) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
9) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関る設備や機器、及び海底中継機、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
10) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
11) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
12) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
13) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

- I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
- Microsoft,Windowsは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

もくじ

もくじ ····· 1
必ずお守りください····· 3
本製品で使用する電波について····· 8
使用上の注意····· 10

本製品を使うまでの手順

以下の流れにしたがって、本製品を使う環境をつくりましょう。

はじめにすること

使う前に·····11
箱の中を確認する····· 12
動作環境を確認する····· 13
各部のなまえとはたらき····· 14

セットアップする

Windows XPで使う·····15
①アクセスポイントを設置する····· 16
②ドライバをインストールする····· 17
③インストール状態を確認する····· 20
④インフラストラクチャの設定をする····· 22

Windows 2000/Me/98で使う·····27
①アクセスポイントを設置する····· 28
②ドライバをインストールする····· 29
③インストール状態を確認する····· 47
④ユーティリティをインストールする····· 52
⑤インフラストラクチャの設定をする····· 53

必要なときに読むところ

応用操作、トラブル解決法、本製品の付属情報です。

応用編

無線LANアダプタのみで通信する・・・・・・・・・・・57
①使用環境を確認する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
②アドホックの設定をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

ファイルを共有する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
①IPアドレスを確認する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
②ファイルを共有する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76

他の設定をする・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
設定ユーティリティを起動する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
プロファイルを作る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
プロファイルを切り替える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
暗号化する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
リファレンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106

その他

本製品を削除する（アンインストール）・・・・・・・・・・ 112
困ったときには・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 128
アフターサービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 129

必ずお守りください

ここでは、お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。
ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

■警告及び注意表示

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人体に多大な損傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性又は物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵記号の意味

△

この記号は注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。
例） 「発火注意」を表す絵表示

⃠

この記号は禁止の行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。
例） 「分解禁止」を表す絵表示

●

この記号は必ず行っていただきたい行為を告げるものです。
記号の中や近くに具体的な内容が書かれています。
例） 「電源プラグを抜く」を表す絵表示

⚠ 警告



本製品を使用する場合は、ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意表示を厳守し、正しい手順で使用してください。

警告・注意事項を無視すると人体に多大な損傷を負う可能性があります。また、正しい手順で操作しない場合、予期せぬトラブルが発生する恐れがあります。ご使用のパソコンや周辺機器のメーカーが指示している警告、注意事項、正しい手順を厳守してください。



本製品をご自分で修理・分解・改造しないでください。

火災や感電、やけど、故障の原因となります。
修理は弊社修理係にご依頼ください。分解したり、改造した場合、保証期間であっても有償修理となる場合があります。



煙が出たり、変な臭いや音がしたら、すぐに使用を中止してください。

電源がある場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



本製品の取り扱いは、必ず取扱説明書で接続方法をご確認になり、以下のことにご注意ください。

- ●接続ケーブルなどの部品は、必ず添付品または指定品をご使用ください。指定品以外を使用すると火災や故障の原因となります。
- ●ケーブルにものをのせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などは行わないでください。火災や故障の原因となります。
- ●ボード製品の場合は、指定されたスロットにきちんと差し込んでください。正しく装着されていないと、火災および故障の原因となります。



本製品の取り付け、取り外し、移動の際は、本製品の取扱説明書をご確認になり、必ずパソコン本体・周辺機器の電源スイッチを切り、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

電源コードを抜かずに行うと、感電および故障の原因となります。


水濡れ
禁止

本製品を濡らしたり、水気の多い場所で使用しないでください。

お風呂場、雨天・降雪中、海岸・水辺での使用は火災・感電・故障の原因となります。


厳守

決められた電流内で使用してください。

本製品を出力電流の絶対最大定格を超えた電流で使用または保管すると火災・感電・故障の原因となります。


禁止

故障や異常のまま、通電しないでください。

本製品に故障や異常がある場合は、必ずパソコンから取り外してください。また、電源や AC アダプタがある場合は、通電をしないでください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。


禁止

本製品を病院内で使用しないでください。

医療機器の誤動作の原因になることがあります。


厳守

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える恐れがあります。


禁止

本製品を飛行機の中で使用しないでください。

飛行機の計器などの誤動作の原因になります。飛行機の中ではコンピュータの USB ポートから本製品を取り外してください。


禁止

日本国外で使用できません。

⚠ 注意



本製品を使用する際に、取扱説明書などでの操作手順説明と異なった操作をしてデータが消失した場合は、データの保証は一切いたしかねます。

取扱説明書などで、操作方法を確認して操作してください。
また、故障に備えて定期的にバックアップを行ってください。
修理の際、検査のためにデータの消去などを行う場合があります。修理にお出しになる前にもバックアップを行ってください。



本製品は以下のような場所（環境）で保管・使用しないでください。

故障の原因となることがあります。

- ●振動や衝撃の加わる場所
- ●直射日光のあたる場所
- ●湿気やホコリが多い場所
- ●温湿度差の激しい場所
- ●熱の発生する物の近く（ストーブ、ヒータなど）
- ●強い磁力・電波の発生する物の近く
  （磁石、ディスプレイ、スピーカ、ラジオ、無線機など）
- ●水気の多い場所（台所、浴室など）
- ●傾いた場所
- ●本製品に通風孔がある場合は、その通風孔をふさぐような場所
  （保管は問題ありません）
- ●腐食性ガス雰囲気中（Cl_2、H_2S、NH_3、SO_2、NO_Xなど）
- ●静電気の影響の強い場所
- ●保温性・保湿性の高い（じゅうたん・スポンジ・ダンボール箱・発泡スチロールなど）場所（保管は問題ありません）



本製品は精密部品です。以下のことにご注意ください。

- ●落としたり、衝撃を加えたり、無理な力を加えたりしない
- ●本製品の上に水などの液体や、クリップなどの小部品を置かない
- ●重いものを上にのせない
- ●本製品内部に液体、金属、たばこの煙などの異物を入れない



本製品のコネクタ部分には直接手を触れないでください。

静電気が流れ、部品が破壊されるおそれがあります。また、静電気は衣服や人体からも発生するため、本製品の取り付け・取り外しは、スチールキャビネットなどの金属製のものに触れて、静電気を逃がした後で行ってください。



本製品をご利用時（LEDランプ点灯中：通信中）に、パソコンの電源を切ったり、リセットしないでください。

故障の原因になったり、データが消失するおそれがあります。

本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。
本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下および次ページの注意をご確認ください。

・以下の近くでは使用しないでください。

・電子レンジ／ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器など
・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器などは、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。
上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。
そのため、通信ができなくなったり速度が遅くなったりする場合があります。

・携帯電話/PHS/テレビ/ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話/PHS/テレビ/ラジオなどは、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。
そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信やこれらの機器の通信に影響はありません。
ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

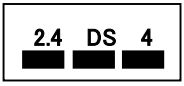
本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラスなどは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。
ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されていると通信できません。

2.4GHz帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

・この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
・万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
・その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：サポートセンター　電話：　金沢　076-260-3644
東京　03-3254-1144



2.4：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す
DS　：変調方式を表す
4　：想定される与干渉距離を表す（<=40m）
■■■：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意してください。

・取り扱い上の注意

・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
・ぬらさないでください。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

・使用上の注意

・本製品はパソコンの「スタンバイ」、「スリープ機能」、「レジューム」、「ハイバネーション」には対応しておりません。
本製品を使用する場合は、これらの機能は無効に設定してください。

・修理について

・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

使う前に

ここでは、本製品を使う前の作業について、順を追って説明しています。

箱の中を確認する

内容物リストを確認します。

▼

12ページ

動作環境を確認する

本製品を使うことができる機種やOSなどを確認します。

▼

13ページ

各部のなまえとはたらき

本製品の各部のなまえとはたらきを確認します。

14ページ

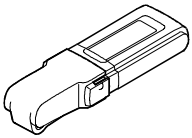
箱の中を確認する

ご使用の前に以下のものがそろっていることを ☐ にチェックをつけながらご確認ください。
万一、不足品がありましたら、弊社サポートセンターまでお知らせください。

注意！

- **箱や梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。**
- **イラストは若干異なる場合があります。**

☐ 本製品（1個）[リング付き]



☐ USB延長ケーブル（1本）[1m]



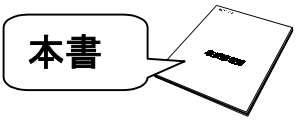
☐ ハードウェア保証書（1枚）



☐ サポートソフトディスク（1枚）
[CD-ROM]



☑ 取扱説明書（1冊）



ユーザー登録とサポートソフトのダウンロードについて

▼ここにシリアル番号をメモしてください。

シリアル番号は本製品の裏面に貼られているシールに「ABC0987654ZX」のように印字してあります。
※ シリアル番号は本製品の裏面に貼られている12桁（ 例：ABC0987654ZX ）のものです。
シリアル番号は、ユーザー登録の際に必要です。
⇒ http://www.iodata.jp/regist/
弊社ホームページよりサポートソフトをダウンロードする際にも必要な場合があります。
⇒ http://www.iodata.jp/lib/

動作環境を確認する

本製品の動作環境を確認します。

動作環境

USBポートを搭載、または、弊社製USBインターフェイスボードを搭載した以下の機種※1

対応機種	対応OS
・NEC PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン 弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認をしております。）	・Windows XP ・Windows 2000 ・Windows Me ・Windows 98（Second Edition含む）

※1　パソコンにCD-ROMドライブが無い場合は、117ページをご覧ください。
※2　パソコンにUSBポートが１つしかなく、USB接続のCD-ROMドライブをお使いの場合は、117ページをご覧ください。

通信可能機器

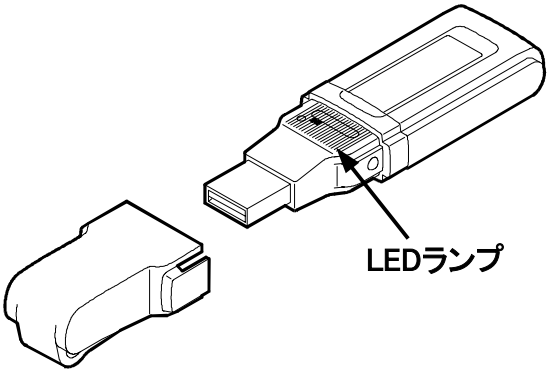
IEEE802.11/IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。
《弊社無線LAN WN-B11シリーズ》
・無線LAN PCカード「WN-B11/PCMH」「WN-B11/PCM」
・無線LAN CFカード「WN-B11/CF」
・無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USBH」「WN-B11/USB」
・無線LANアクセスポイント「WN-B11/AXPH」「WN-B11/AXP」
・無線ブロードバンドルータ「WN-B11/BBRH」「WN-B11/BBR」
・無線プリントサーバ「WN-B11/PRS」
・無線ISDNルータ「WN-B11/INS」

注意！

本製品は、以下とは通信できません。
・弊社製 無線 LAN WN-A54 シリーズ
・弊社製 無線 LAN PC カード PCWN-W10
・弊社製 コードレスネットワークシンフォニーシリーズ（WN-S/560, WN-S/PCI, PCWN-S）
・弊社製 無線スイッチングハブ WNA-FSWH4

各部のなまえとはたらき

各部のなまえとはたらきを確認します。



●LEDランプ

色	状態
赤点灯	電源が入っている状態
オレンジ点滅	ネットワーク上にアクセスポイントや他の無線LAN機器が見つからない状態、または機能が停止している状態
オレンジ点灯	・インフラストラクチャ（Infrastructure）時 アクセスポイントと通信が行われている状態 ・アドホック（Ad Hoc）時 通信できる他の無線LAN製品を探している状態、または、他の無線LAN機器と通信できる状態

Windows XPで使う

本製品をWindows XPで使うためのセットアップをします。

①アクセスポイントを設置する

アクセスポイントの設置をし、アクセスポイントの設定などを確認します。

▼

16ページ

②ドライバをインストールする

本製品のドライバをインストールします。

▼

17ページ

③インストール状態を確認する

インストールが正常にできたかどうかを確認します。

▼

20ページ

④インフラストラクチャの設定をする

本製品をインフラストラクチャで使うための設定をします。

22ページ

①アクセスポイントを設置する

無線LANアクセスポイント（ルータ）と通信する場合は、次のように設置しておいてください。

1 アクセスポイント（ルータ）の電源を入れた状態で設置します。

アクセスポイント（ルータ）の設置方法については、アクセスポイント（ルータ）の取扱説明書をご覧ください。

2 アクセスポイント（ルータ）の「SSID」（ESSID）をメモします。

アクセスポイント（ルータ）の取扱説明書をご覧になり、下に書き込んでください。

※SSIDは【④インフラストラクチャの設定をする】(22ページ)で使用します。

▼確認したSSID(ESSID)を記入してください。

SS ID(ESS ID)	

3 アクセスポイント（ルータ）の[暗号キー]をご確認ください。

アクセスポイント（ルータ）の取扱説明書をご覧ください。

暗号化されている場合は暗号キーをメモしてください。

※暗号キーは【④インフラストラクチャの設定をする】(22ページ)で使用します。



参考

●SS IDとは？

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

②ドライバをインストールする

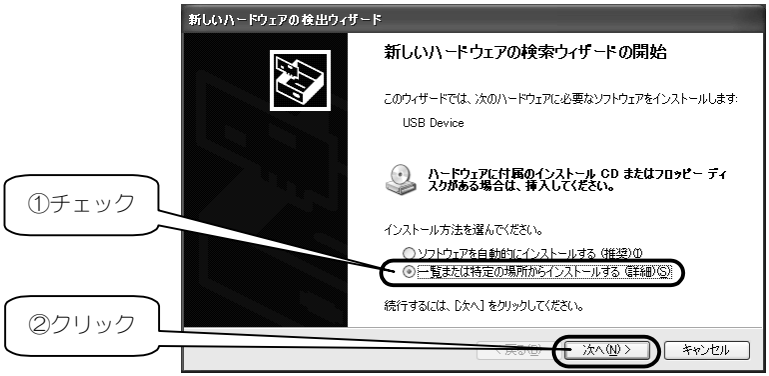
本製品を使うには、はじめにドライバをインストールする必要があります。
ここでは、本製品のドライバをインストールします。

1 管理者権限のあるユーザーでWindows XPにログオンします。

2 本製品をパソコンのUSBポートの奥まで挿入します。



3 [一覧または特定の場所…]をチェックして、[次へ]ボタンをクリックします。



4 サポートソフトディスクを CD-ROMドライブにセットします。

※CD-ROMドライブがない場合は117ページ参照



5 ドライバの検索場所を指定します。

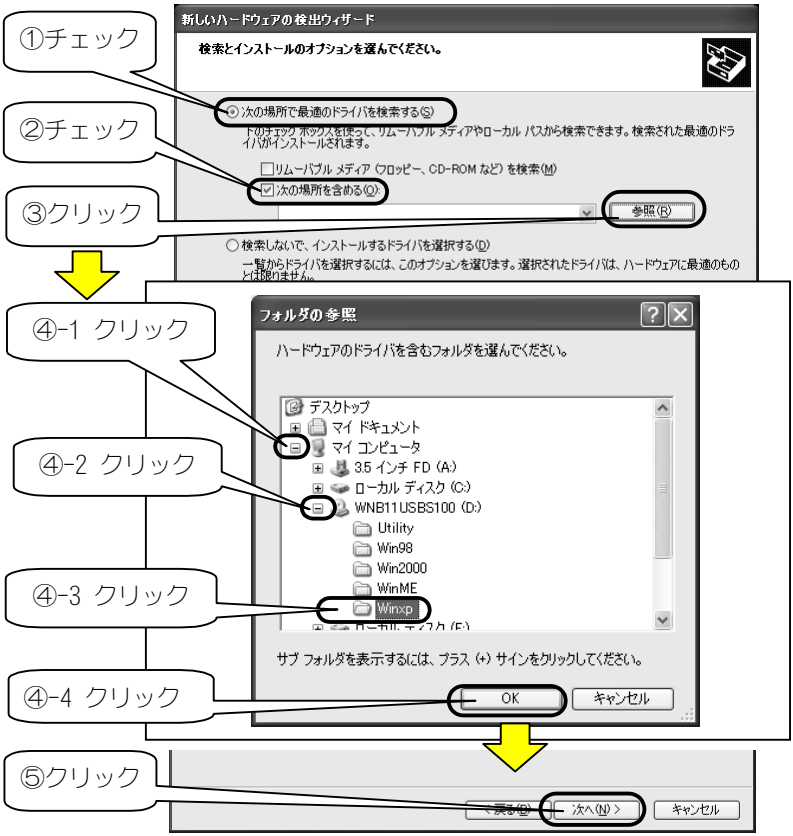
①［次の場所で最適のドライバを検索する］をチェックします。

②［次の場所を含める］のみをチェックします。
（その他の項目のチェックは外してください。）

③［参照］ボタンをクリックします。

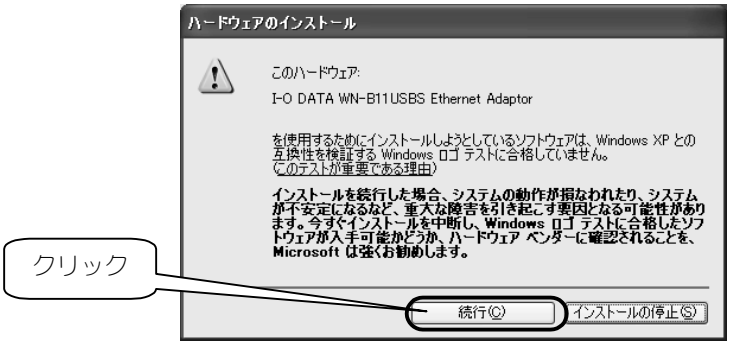
④［マイコンピュータ］→CD-ROMドライブ→［WINXP］を順にクリックして、［OK］ボタンをクリックします。

⑤［次へ］ボタンをクリックします。



6 ［続行］ボタンをクリックします。

ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。

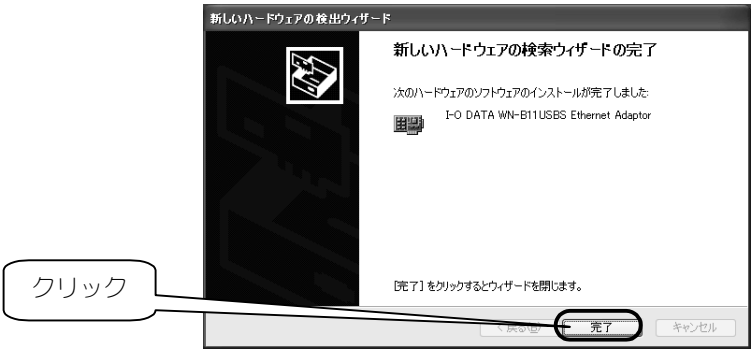


参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、マイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんので、そのまま続行します。

→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は、現時点では認定を受けておりません。

7 しばらくして以下の画面が表示されたら、サポートソフトを取り出し、［完了］ボタンをクリックします。



以上でインストールは終了です。
次ページ【③インストール状態を確認する】へお進みください。

③インストール状態を確認する

ここでは本製品が、正常に使用できることを確認する方法を説明します。

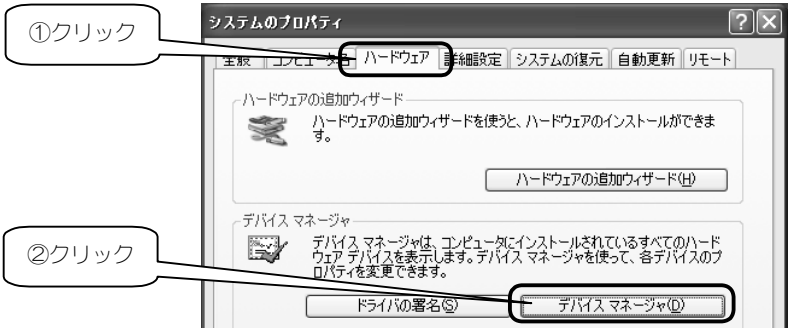
確認手順

確認：[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されていることを確認する

1 **[スタート]をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**



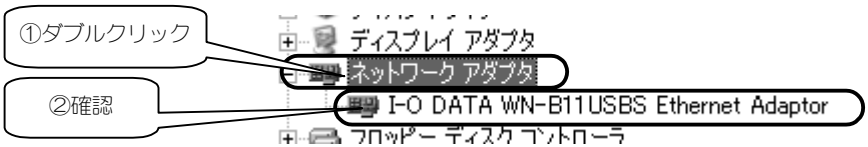
2 [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

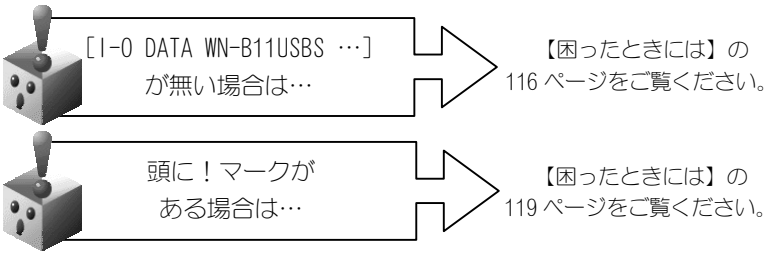


3 [ネットワークアダプタ] をダブルクリックします。

・[ネットワークアダプタ] の下に
[I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter] と表示されていることを確認します。

・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。





正常に表示されていれば、本製品が使用できます。

④インフラストラクチャの設定をする

①で設置したアクセスポイント（ルータ）と通信するための設定をします。
無線LANアダプタのみで通信するアドホックモードで使用する場合は、【無線LANアダプタのみで通信する】（57ページ）をご覧ください。

1 アクセスポイント（ルータ）の電源が入っていることを確認します。

2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。



参考

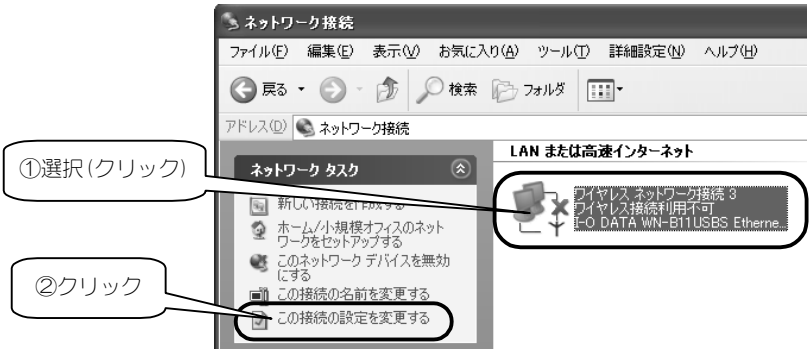
[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順4へお進みください。

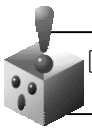


4 [ネットワーク接続]をクリックします。



5 インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを選択し、[この接続の設定を変更する]をクリックします。





[ワイヤレスネットワーク接続]が表示されない場合は…

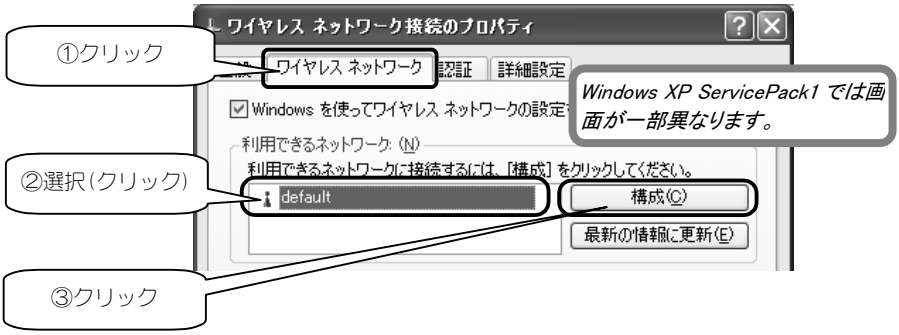
【困ったときには】の【本製品が正常に動作しない】119 ページをご覧ください。

6 通信するネットワークを選択します。

①[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。

②[利用できるネットワーク]で16ページで確認したSSIDを選択します。

③[構成]ボタンをクリックします。



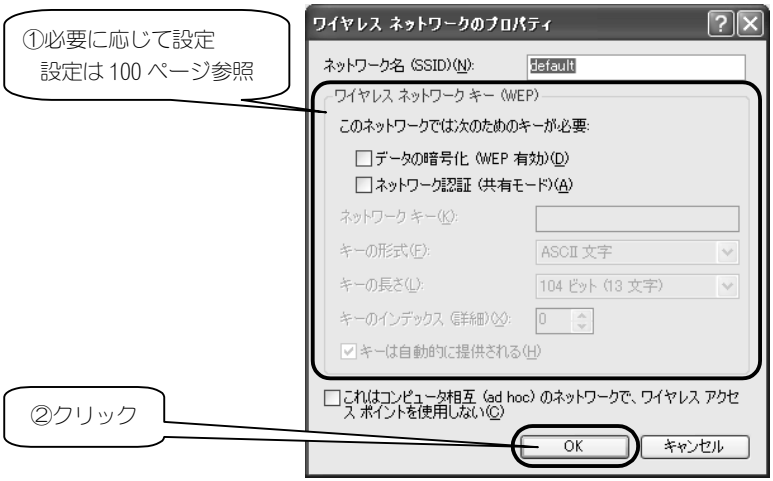


[利用できるネットワーク]に SSID が表示されない場合は…

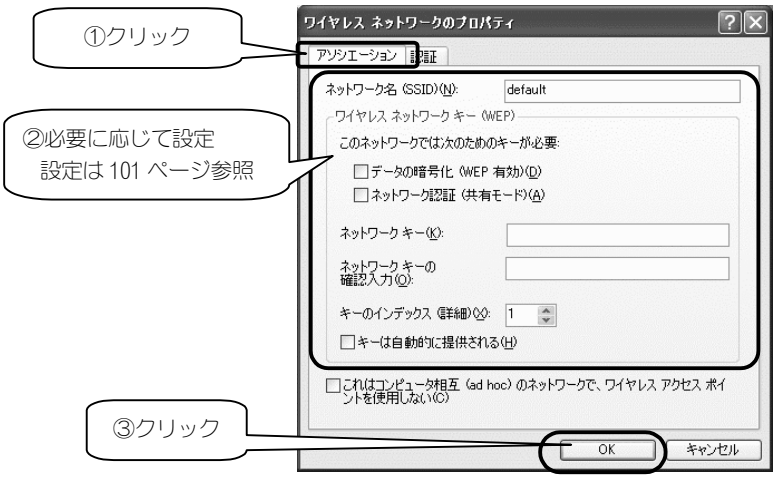
・[最新の情報に更新]ボタンをクリックしてみてください。

・【困ったときには】の 121 ページをご覧ください。

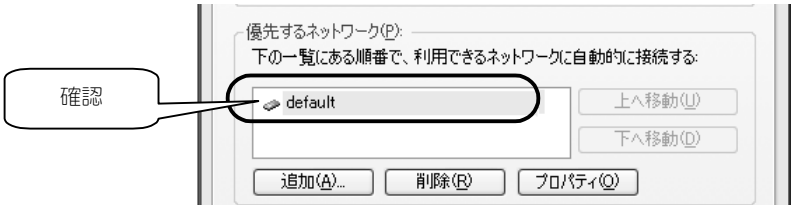
7 通信するアクセスポイント（ルータ）が暗号化(WEP)を使用している場合は100または101ページを参照して設定し、[OK]ボタンをクリックします。
暗号化（WEP）を使用していない場合は、何も設定せずにそのまま［OK］ボタンをクリックします。



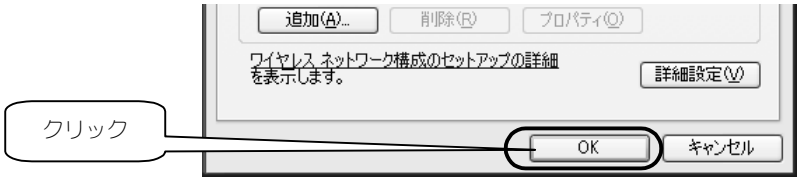
Windows XP Service Pack1 をお使いの場合は以下の画面・手順となります。



8 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]画面で、[優先するネットワーク]に追加したSSIDが表示されていることを確認します。**



9 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]へ戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。**



以上で設定は完了です。
このままご使用になれますが、ファイルの共有を行いたい場合は、【ファイルを共有する】（69ページ）をご覧ください。

MEMO

Windows 2000/Me/98で使う

本製品をWindows 2000/Me/98で使うためのセットアップをします。

①アクセスポイントを設置する

アクセスポイントの設置をし、アクセスポイントの設定などを確認します。

▼

28ページ

②ドライバをインストールする

本製品のドライバをインストールします。

▼

29ページ

③インストール状態を確認する

インストールが正常にできたかどうかを確認します。

▼

47ページ

④ユーティリティをインストールする

設定ユーティリティをインストールします。

▼

52ページ

⑤インフラストラクチャの設定をする

本製品をインフラストラクチャで使うための設定をします。

53ページ

①アクセスポイントを設置する

無線LANアクセスポイント（ルータ）と通信する場合は、次のように設置しておいてください。

1 アクセスポイント（ルータ）の電源を入れた状態で設置します。

アクセスポイント（ルータ）の設置方法については、アクセスポイント（ルータ）の取扱説明書をご覧ください。

2 アクセスポイント（ルータ）の「SSID」（ESSID）をメモします。

アクセスポイント（ルータ）の取扱説明書をご覧になり、下に書き込んでください。

※SSIDは【⑤インフラストラクチャの設定をする】(53ページ)で使用します。

▼確認したSSID(ESSID)を記入してください。

SS ID(ESS ID)	

3 アクセスポイント（ルータ）の[暗号キー]をご確認ください。

アクセスポイント（ルータ）の取扱説明書をご覧ください。

暗号化されている場合は暗号キーをメモしてください。

※暗号キーは【⑤インフラストラクチャの設定をする】(53ページ)で使用します。



参考

●SS IDとは？

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないと、そのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

②ドライバをインストールする

本製品を使うには、はじめにドライバをインストールする必要があります。
ここでは、本製品のドライバをインストールします。

お使いのパソコンのOSごとに、インストール方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows 2000でご使用の場合
⇒【Windows 2000】（次ページ）

●Windows Meでご使用の場合
⇒【Windows Me】（35ページ）

●Windows 98でご使用の場合
⇒【Windows 98】（40ページ）

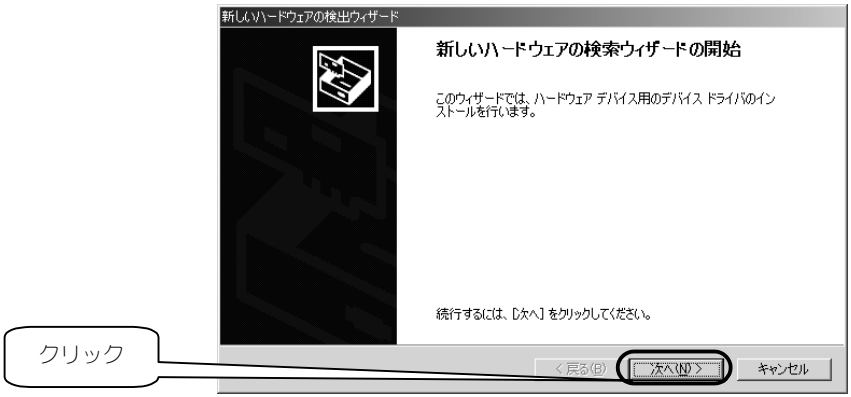
Windows 2000

1 Administrator権限のあるユーザーでログオンします。

2 本製品をパソコンのUSBポートの奥まで挿入します。

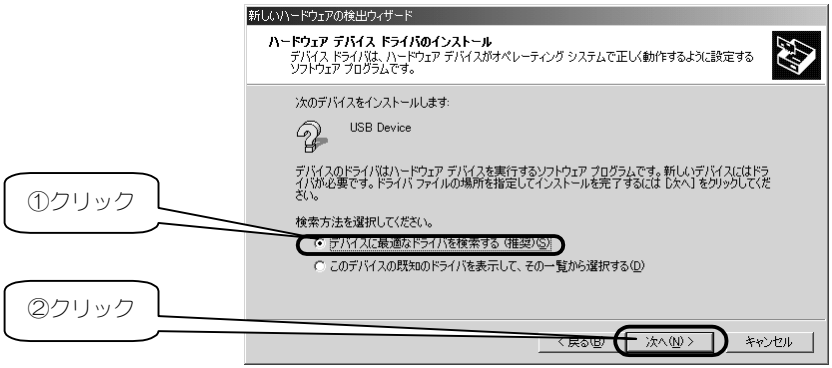


3 [次へ]ボタンをクリックします。



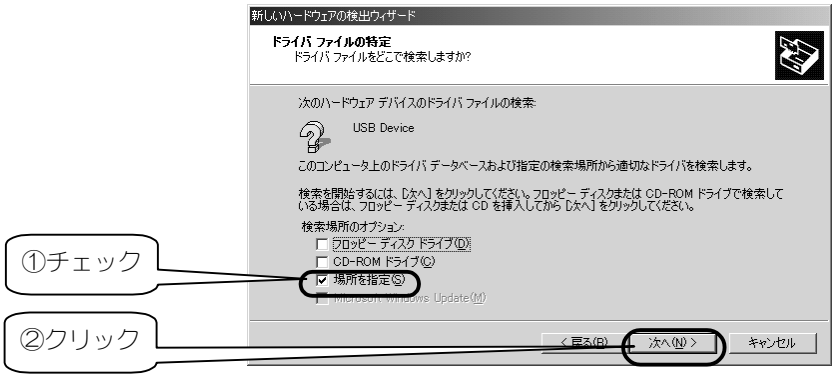
Windows 2000（つづき）

4 **[デバイスに最適な…]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。**



5 **[場所を指定]のみにチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。**

他のチェックは外してください。



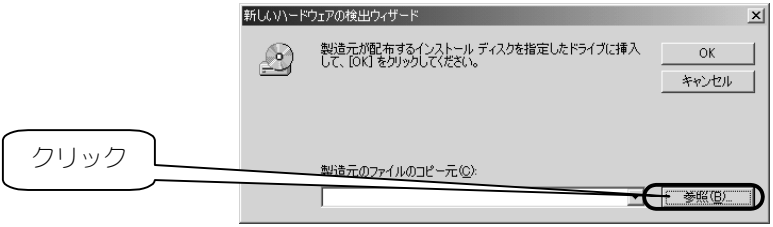
6 **サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。**

※CD-ROMドライブがない場合は117ページ参照

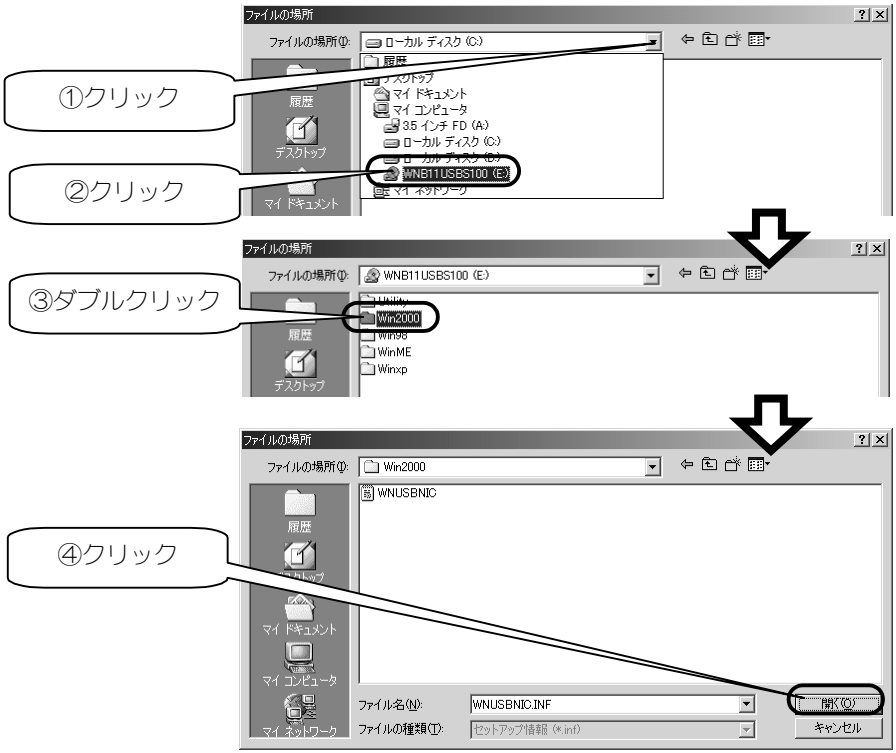


Windows 2000（つづき）

7 **[参照]ボタンをクリックします。**

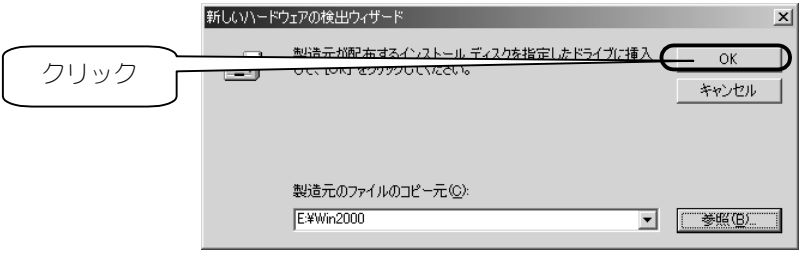


8 **CD-ROMの[WIN2000]フォルダを指定し、[開く]ボタンをクリックします。**

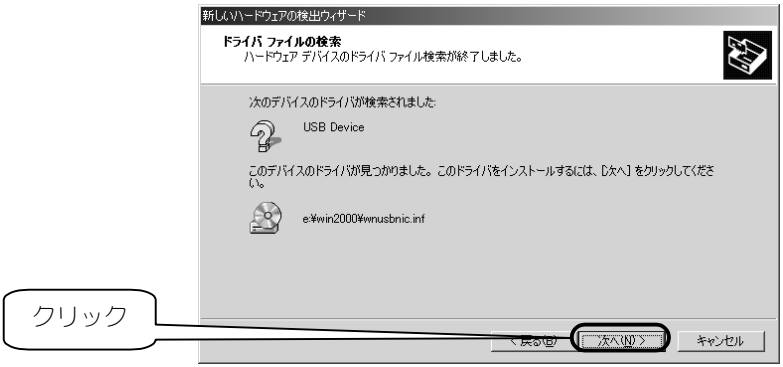


Windows 2000（つづき）

9 [OK]ボタンをクリックします。

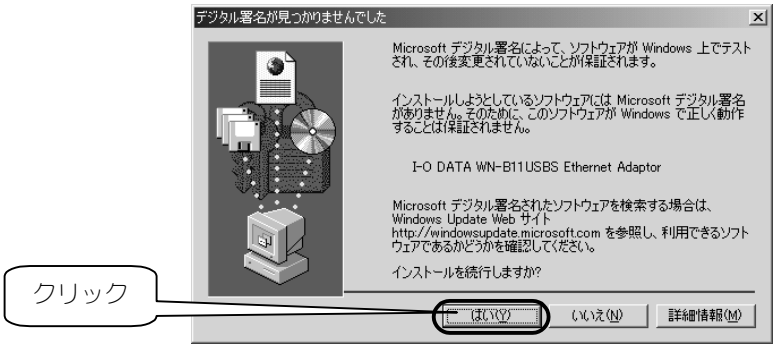


10 [次へ]ボタンをクリックします。



11 ［はい］ボタンをクリックします。

ボタンをクリック後、ファイルのコピーを開始します。



Windows 2000（つづき）

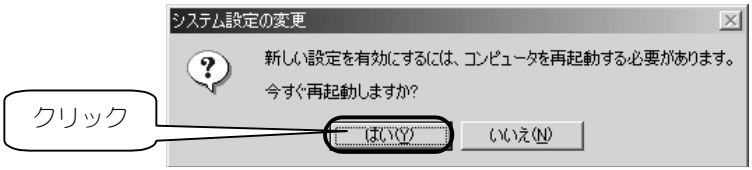
参考

弊社製ソフトウェアが確認された時点で、前ページのマイクロソフトが認証するソフトウェアでは無いというメッセージが表示されますが、特に問題ありませんのでそのまま続行します。
→マイクロソフト社は WHQL という組織において、パソコン本体や周辺機器などを対象とした認定手続きを実施しております。
このたびお買い上げ頂いた製品は、現時点では認定を受けておりません。

12 **しばらくして以下の画面が表示されたら、［完了］ボタンをクリックします。**



13 **以下の画面が表示された場合は、[はい]をクリックして、パソコンを再起動します。**



以上でドライバのインストールは終了です。【③インストール状態を確認する】（47ページ）へお進みください。

Windows Me

1 パソコンを起動します。

2 本製品をパソコンのUSBポートの奥まで挿入します。



3 [ドライバの場所を指定…]を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



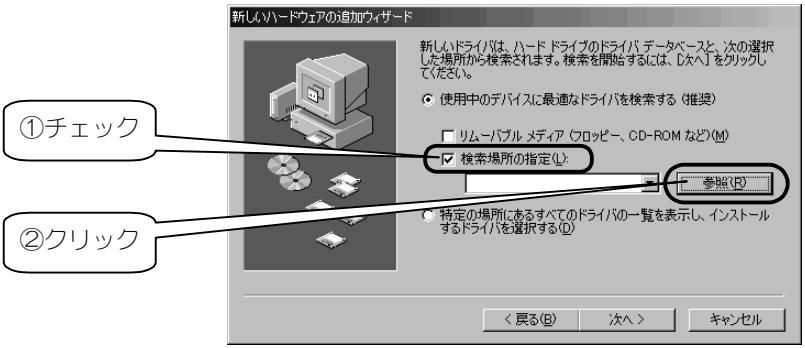
4 サポートソフトディスクを CD-ROMドライブにセットします。

※CD-ROMドライブがない場合は117ページ参照

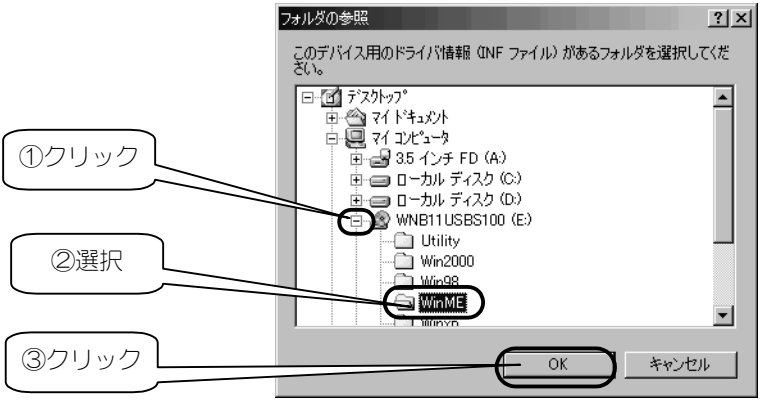


Windows Me（つづき）

5 **[検索場所の指定]のみにチェックを付け、[参照]ボタンをクリックします。**

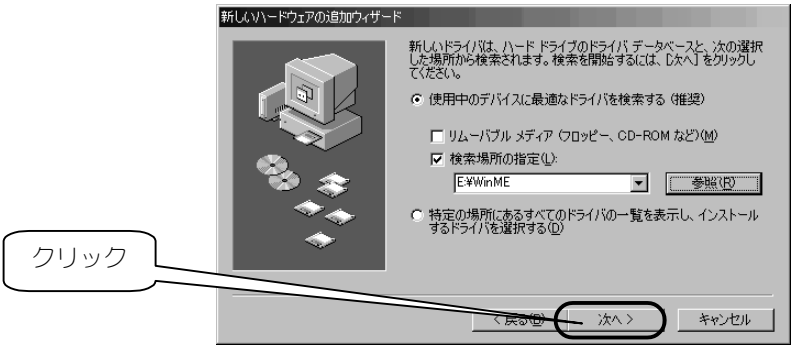


6 **CD-ROMの[WINME]フォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックします。**



Windows Me（つづき）

7 **[次へ]ボタンをクリックします。**



8 **[次へ]ボタンをクリックします。**



9 **[完了]ボタンをクリックします。**

→この後、他の画面が表示された場合は、次ページをご覧ください。



Windows Me（つづき）

参考

[I-O DATA WN-B11/USBS Ethernet Adapter]と表示されていない場合は、[戻る]ボタンで手順6まで戻り、手順6の画面で検索場所の指定で CD-ROM ドライブの「WINME」フォルダを指定（クリック）してから、再度手順 7以降を行ってください。

注意！

[ファイルのコピー]画面が表示される場合があります。

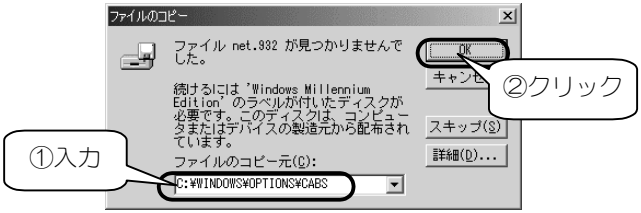
●お使いのパソコンが Windows Me プリインストールモデルの場合

→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。

[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS]

（Windows Me がインストールされているドライブが C ドライブの場合の例）

②[OK]ボタンをクリックします。



●他の Windows からアップグレードインストールした場合（CD-ROM から Windows Me をインストールした場合）

→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。

[C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL]

（Windows Me がインストールされているドライブが C ドライブの場合の例）

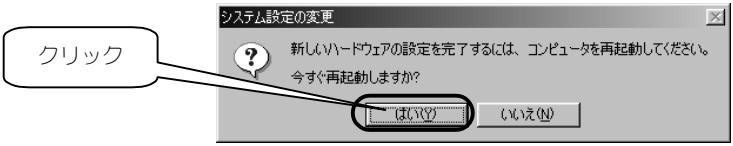
②[OK]ボタンをクリックします。



Windows Me（つづき）

10 **[はい]をクリックして、パソコンを再起動します。**

画面が表示されない場合は、手動で再起動してください。



以上でドライバのインストールは終了です。【③インストール状態を確認する】（47ページ）へお進みください。

Windows 98

1 パソコンを起動します。

2 本製品をパソコンのUSBポートの奥まで挿入します。



USB ポートの位置は、お使いのパソコンによって異なります。
パソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 [次へ]ボタンをクリックします。



Windows 98 のバージョンによっては、ここに［不明なデバイス］と表示される場合があります。

Windows 98（つづき）

4 **[使用中のデバイス…]にチェックを付け、[次へ]ボタンをクリックします。**



4 **サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。**

※CD-ROMドライブがない場合は117ページ参照

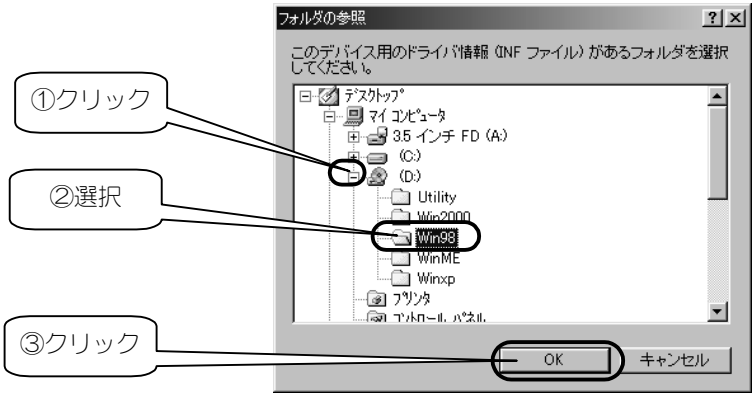


6 **[検索場所の指定]のみにチェックを付け、[参照]ボタンをクリックします。**



Windows 98（つづき）

7 CD-ROMの[WIN98]フォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックします。

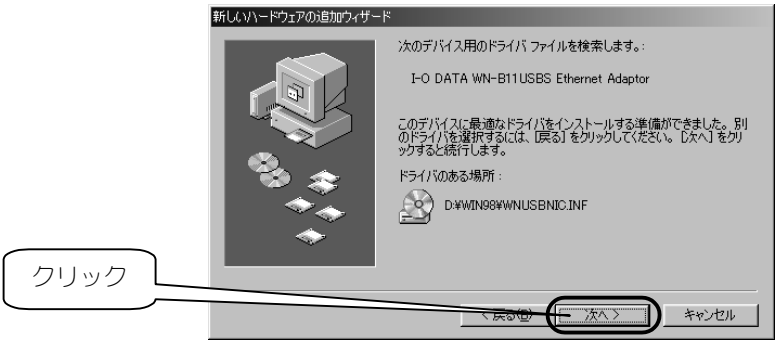


8 [次へ]ボタンをクリックします。



Windows 98（つづき）

9 **[次へ]ボタンをクリックします。**

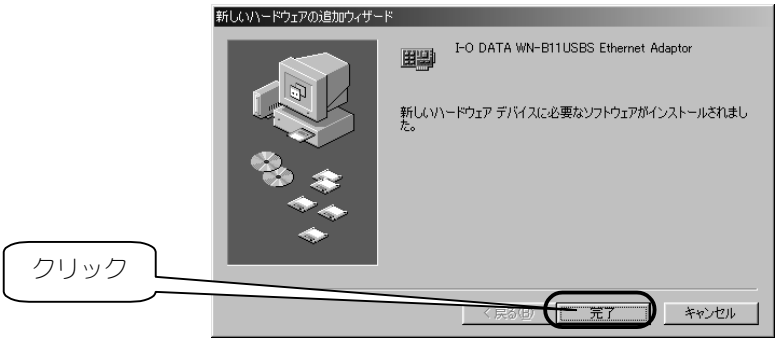


参考

[I-O DATA WN-B11/USBS Ethernet Adapter]と表示されていない場合は、[戻る]ボタンで手順7まで戻り、手順7の画面で検索場所の指定でCD-ROMドライブの「WIN98」フォルダを指定（クリック）してから、再度手順8以降を行ってください。

10 **[完了]ボタンをクリックします。**

※以下の画面以外が表示された場合は、次ページの【注意】をご覧ください。



Windows 98（つづき）

注意！

「Windows 98 CD-ROM」（「Windows 98 Second Edition CD-ROM」）を要求された場合は…

→①「Windows 98 CD-ROM」（または「Windows 98 Second Edition CD-ROM」）を CD-ROM ドライブにセットします。

②[OK]ボタンをクリックします。

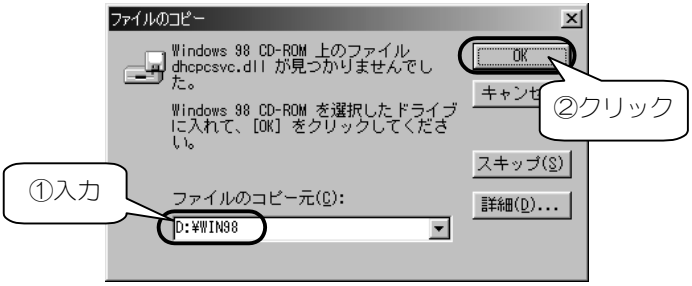


さらに、以下の画面が表示された場合は…

→①[ファイルのコピー元]欄を以下のように指定します。

[D:¥WIN98]　（CD-ROM ドライブが D ドライブの場合）

②[OK]ボタンをクリックします。



Windows 98（つづき）

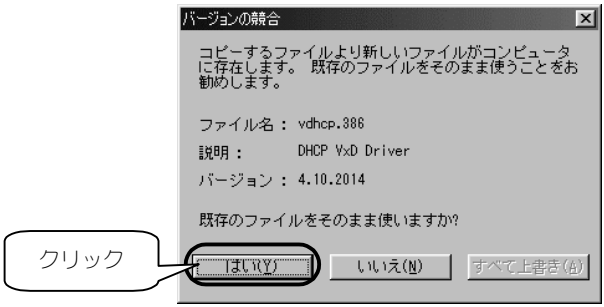
注意！

［ファイルのコピー］画面で、お使いのパソコンが Windows 98 プリインストールモデルの場合は…
→①［ファイルのコピー元］欄を以下のように指定します。
［C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS］
（Windows 98 がインストールされているドライブが C ドライブの場合の例）
②［OK］ボタンをクリックします。



注意！

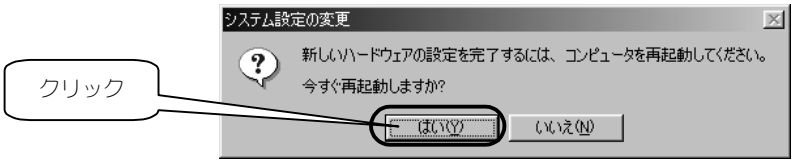
［バージョンの競合］画面が表示された場合は
→［はい］ボタンをクリックします。
※複数の［バージョンの競合］画面が表示された場合は、すべて［はい］ボタンをクリックしてください。



Windows 98（つづき）

// [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動します。

画面が表示されない場合は、手動で再起動してください。



以上でドライバのインストールは終了です。【③インストール状態を確認する】（次ページ）へお進みください。

③インストール状態を確認する

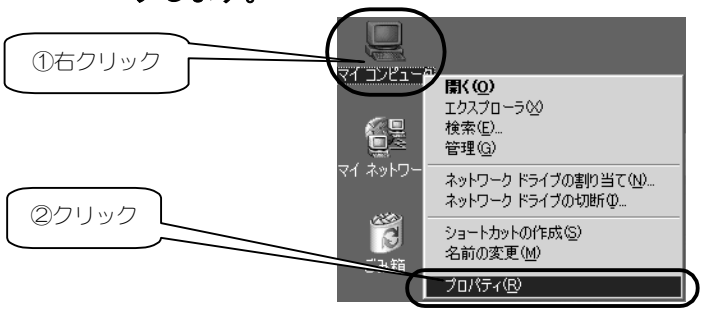
ここでは本製品が、正常に使用できることを確認する方法を説明します。

・Windows 2000の場合	⇒	以下の【Windows 2000での確認】参照
・Windows Me/98の場合	⇒	49ページ【Windows Me/98での確認】参照

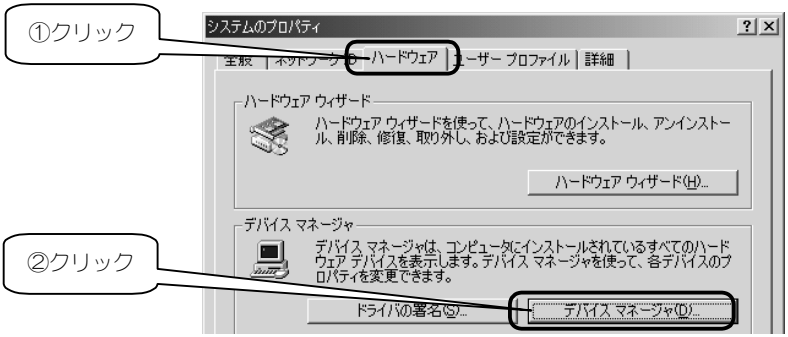
Windows 2000での確認

確認:[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されていることを確認する

1 [マイコンピュータ]を右クリックし[プロパティ]をクリックします。



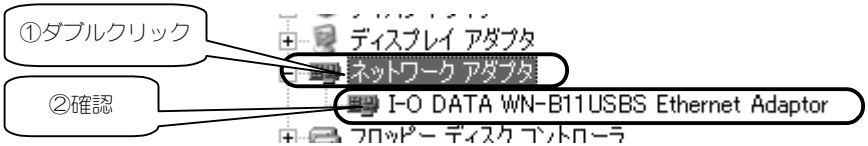
2 [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。



3 ［ネットワークアダプタ］をダブルクリックします。

・［ネットワークアダプタ］の下に
［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］と表示されていることを確認します。

・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。



［I-O DATA WN-B11USBS …］が無い場合は…

【困ったときには】の116 ページをご覧ください。

頭に！マークがある場合は…

【困ったときには】の119 ページをご覧ください。

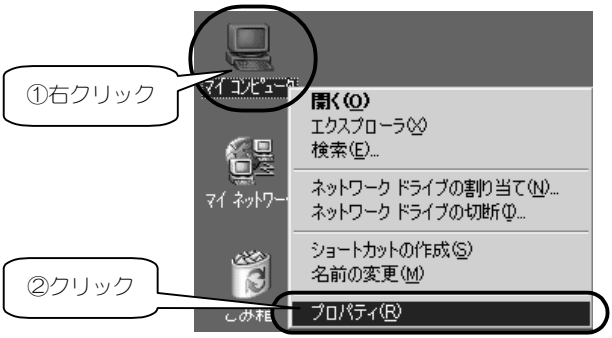
正常に表示されていれば、正常にインストールされています。
この後、【④ユーティリティをインストールする】（52ページ）へお進みください。

Windows Me/98での確認

確認:[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されているか確認しましょう

設定ユーティリティが正常にインストールされたかを確認するために、以下の手順で、［デバイスマネージャ］に本製品が登録されているかを確認します。

1 ［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］をクリックします。

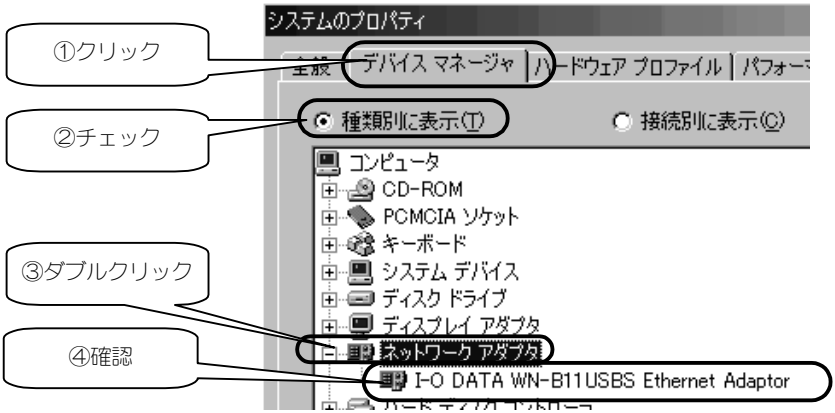


Windows Me/98での確認（つづき）

2 **［デバイスマネージャ］タブをクリックし、［種類別に表示］で［ネットワークアダプタ］をダブルクリックします。**

・［ネットワークアダプタ］の下に［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］と表示されていることを確認します。

・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。



［I-O DATA WN-B11USBS …］が無い場合は…

【困ったときには】の116ページをご覧ください。

頭に！マークがある場合は…

【困ったときには】の119ページをご覧ください。

参考

PC98-NX シリーズで［デバイスマネージャ］が表示されない場合は、以下の手順で［アドバンスドモード］に設定してください。

1.［スタート］→［プログラム］→［Cyber Trio-NX］（あるいは［NX ユーティリティ］、［NX の設定］）→［Cyber-Trio-NX セットアップ］を順に起動します。

2.［アドバンスドモード］をチェックし、［OK］ボタンをクリックします。

3.Windows を再起動します。

Windows Me/98での確認（つづき）

正常に表示されていれば、正常にインストールされています。
この後、次ページ【④ユーティリティをインストールする】へお進みください。

④ユーティリティをインストールする

本製品の設定をするための「設定ユーティリティ」をインストールします。

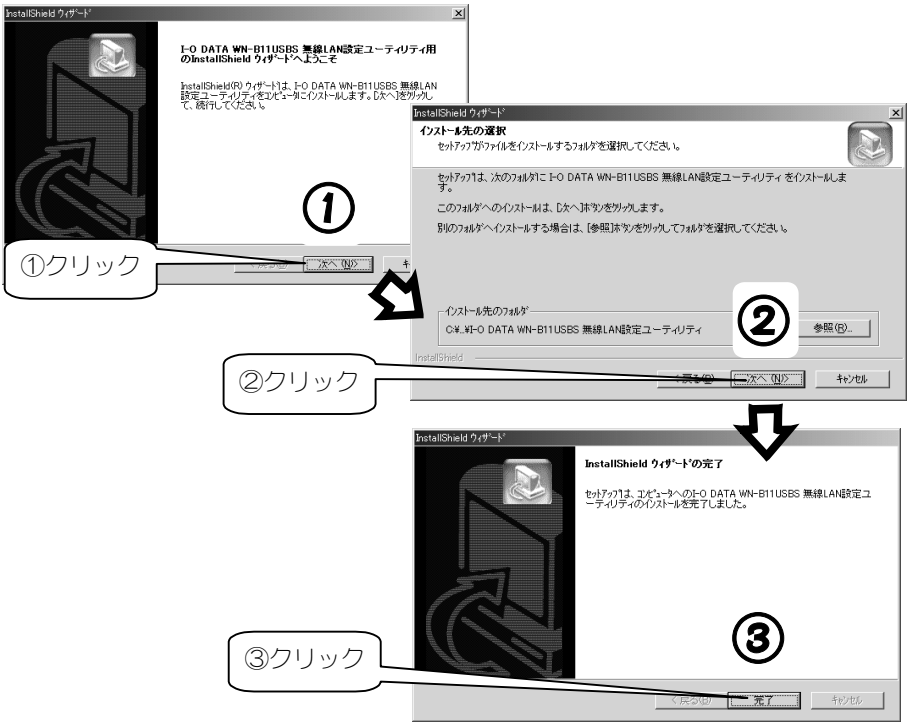
注意！

本ユーティリティは、Windows 2000/Me/98 用です。
Windows XP をお使いの場合は、インストールする必要はありません。

1 **[マイコンピュータ]内のCD-ROMアイコンをダブルクリックし、[Utility]フォルダ内の[SETUP]アイコンをダブルクリックします。**



2 **画面の指示にしたがいます。**



以上でインストールは終了です。【⑤インフラストラクチャの設定をする】（次ページ）へお進みください。

⑤インフラストラクチャの設定をする

①で設置したアクセスポイントと通信するための設定をします。
無線LANアダプタのみで通信するアドホックモードで使用する場合は、【無線LANアダプタのみで通信する】（57ページ）をご覧ください。

1 アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。

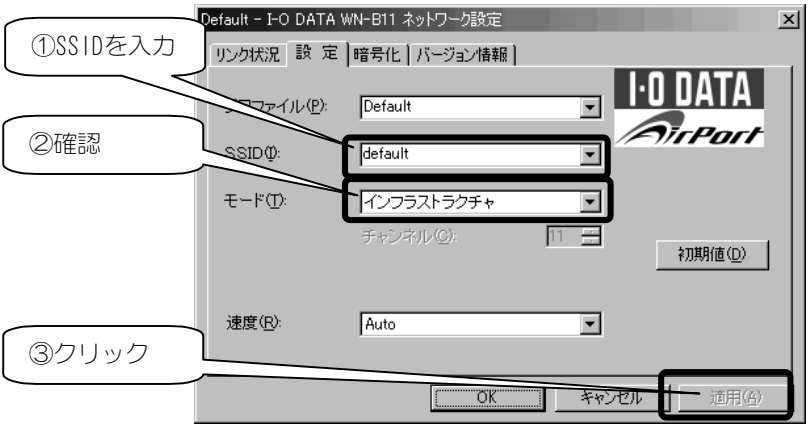
2 本製品を装着したパソコンの電源を入れます。

3 設定ユーティリティを起動します。
［スタート］→［プログラム］→［WN-B11USBS］→［I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ］を順にクリックします。



4 **［設定］タブで、28ページで確認したSSIDを入力し、［モード]が[インフラストラクチャ]であることを確認して、［適用］ボタンをクリックします。**

※設定を変更しない場合は［OK］ボタンをクリックします。



参考

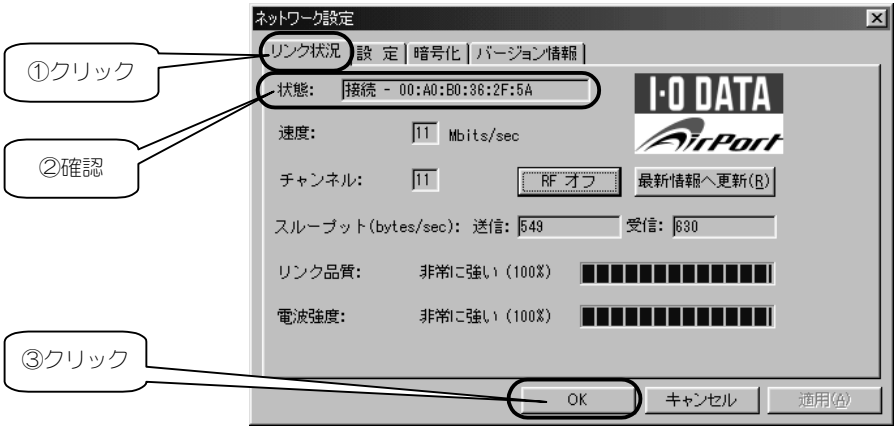
この画面で[プロファイル]の設定や、［暗号化］タブで[暗号化]の設定もできます。
詳しくは、【他の設定をする】（93ページ）をご覧ください。

5 正常に通信できていることを確認します。

①[リンク状況]タブをクリックします。

②正常に通信できている場合、[リンク状況]タブで［状態］が“接続. . .”と表示されます。

確認後、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



以上で設定は完了です。
このままご使用になれますが、ファイルの共有を行いたい場合は、【ファイルを共有する】（69ページ）をご覧ください。

MEMO

無線LANアダプタのみで通信する
アドホックモード

本製品を使えるようにするには、以下の作業が必要です。手順にしたがって準備しましょう。

①使用環境を確認する

本製品を使用する環境を確認します。

▼

58ページ

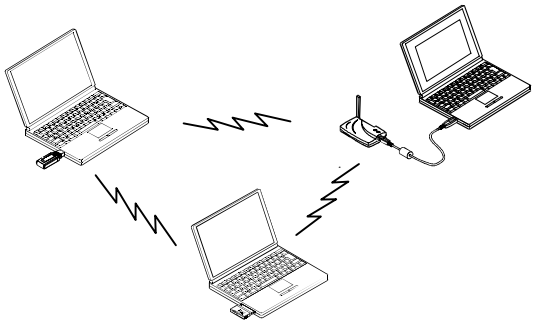
②アドホックの設定をする

無線LANアダプタのみで通信する（アドホックモード）ための設定をします。

59ページ

アドホックモードとは？

図のようにアクセスポイントを介さずに、パソコン同士で直接通信し合う形態です。



①使用環境を確認する

本製品を使用するには、SS IDを決める必要があります。

1 **本製品を使用する環境を、以下から選び、チェックを付けます。**

☐ 新たにネットワークを構築する（１台目の導入）	☐ 既存のネットワークで使用する（追加導入）
2 **SS ID（ESS ID）を決めます。** 任意のSS ID（ESS ID）とチャンネルを決め、下に書き込んでください。 （SSIDは、半角英数字32文字以内で設定します。大文字、小文字の区別もあります。）	**ネットワーク管理者にSS ID（ESS ID）をご確認ください。** 確認したSS ID（ESS ID）とチャンネルを下に書き込んでください。

▼決めた(確認した)SS ID(ESS ID)を記入してください。

※SS ID(ESS ID)は【②アドホックの設定をする】(59ページ)で使用します。

SS ID(ESS ID)	

▼決めた(確認した)チャンネルを記入してください。

※チャンネルは、【②アドホックの設定をする】(59ページ)のWindows 2000/Me/98で設定時に使用します。

チャンネル（１～14）	



参考

●SS IDとは？

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。アクセスポイントによっては、SS IDがESS IDと記載されている場合もあります。

②アドホックの設定をする

無線LANアダプタのみで通信する（アドホックモード）ための設定をします。



注意！

複数の無線 LAN グループがある場合は、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値（ユーティリティで設定する［チャンネル］の値）を設定してください。（電波の干渉を防ぐため５チャンネル分間隔を空けることをおすすめします。推奨チャンネル設定「1　6　11　14」）
通信チャンネルの値が他の無線LANグループと重なると、他の無線LANグループに通信の内容が流れる、あるいは他の無線LANグループの通信が来てしまいます。そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



参考

弊社製WN-B11/PCMとアドホックで通信する場合は、WN-B11/PCMの[モード]を[802.11 Ad hoc]に設定してください。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XP】（次ページ）

●Windows 2000/Me/98でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98】（65ページ）

Windows XP

1 本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。

2 [スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。

3 [ネットワークとインターネット接続]をクリックします。



参考

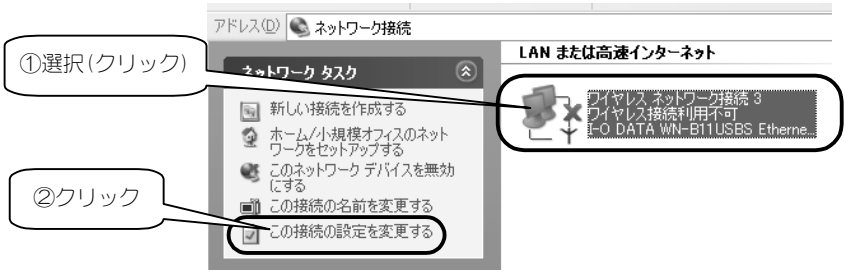
[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順4へお進みください。



4 [ネットワーク接続]をクリックします。



5 インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを選択し、[この接続の設定を変更する]をクリックします。



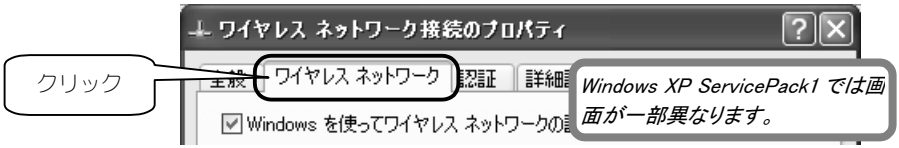
[ワイヤレスネットワーク接続]が表示されない場合は…

【困ったときには】の【本製品が正常に動作しない】119 ページをご覧ください。

Windows XP（つづき）

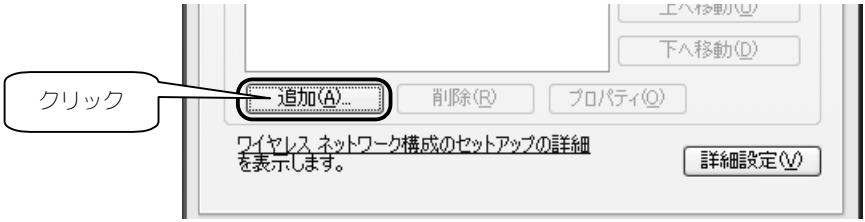
6 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]が表示されますので[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。

※Windows XP SevicePack1では画面が一部異なります。



7 ●1台目の導入の場合

[追加]ボタンをクリックします。

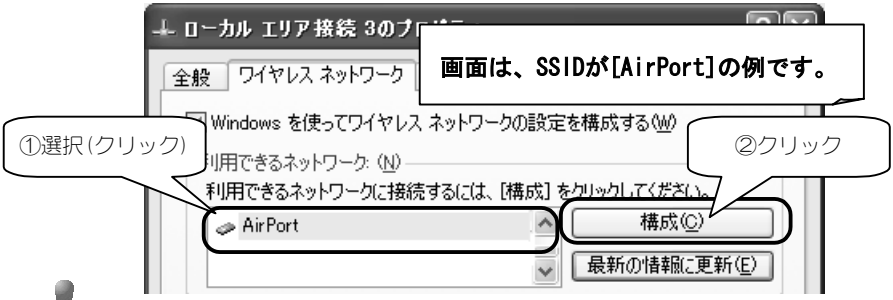


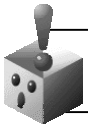
●追加導入の場合

※Windows XP SevicePack1では画面が一部異なりますが、手順は同様です。

①[利用できるネットワーク]で58ページで確認したSSIDを選択します。

②[構成]ボタンをクリックします。





[利用できるネットワーク]にSSIDが表示されない場合は…

・[最新の情報に更新]ボタンをクリックしてみてください。

・【困ったときには】の121ページをご覧ください。

Windows XP（つづき）

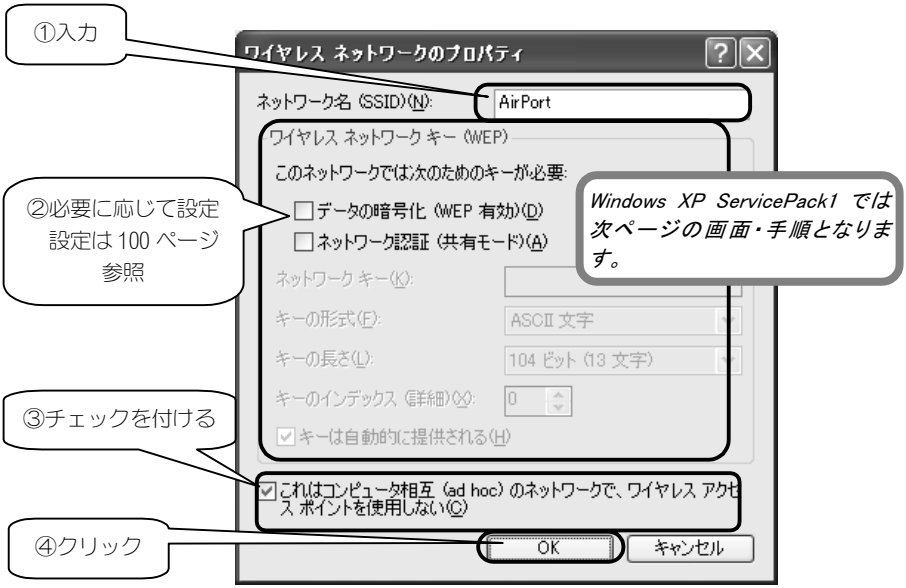
8 ［ワイヤレスネットワークのプロパティ］画面が表示されますので、SS IDなどを設定します。

① 1台目の導入の場合は、【①使用環境を確認する】（58ページ）で確認したSS ID(ESS ID)を入力します。

②必要に応じて暗号化（WEP）の設定をします。

③「これはコンピュータ相互（ad hoc）…」にチェックを付けます。

④[OK]ボタンをクリックします。



Windows XP（つづき）

Windows XP Service Pack1 をお使いの場合は以下の画面・手順となります。

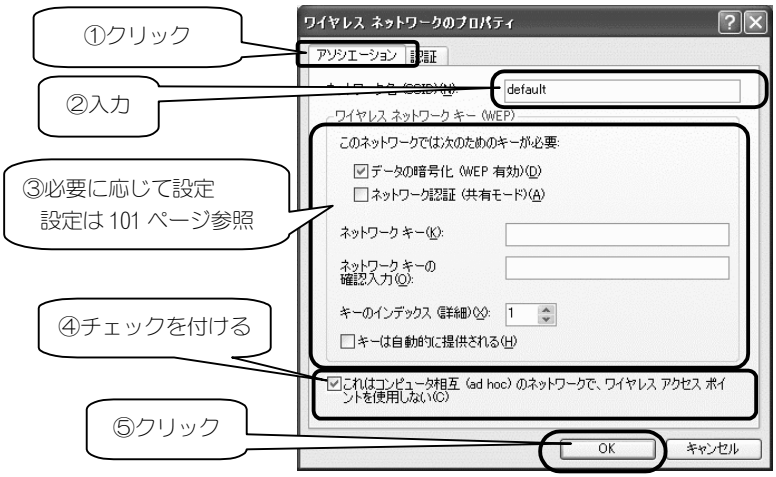
①［アソシエーション］タブをクリックします。

② **１台目の導入の場合は、**【①使用環境を確認する】（58ページ）で確認したSS ID(ESS ID)を入力します。

③必要に応じて暗号化（WEP）の設定をします。

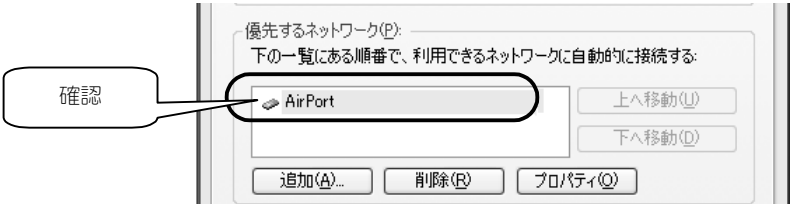
④「これはコンピュータ相互（ad hoc）…」にチェックを付けます。

⑤[OK]ボタンをクリックします。

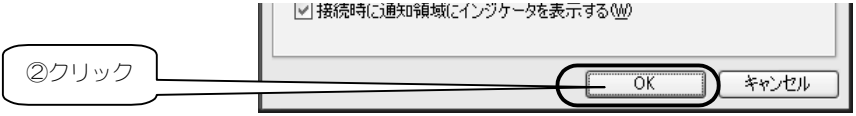


Windows XP（つづき）

9 **[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ]画面で、[優先するネットワーク]に追加したSSIDが表示されていることを確認します。**



10 **[OK] ボタンをクリックします。**



以上で設定は完了です。２台目以降の設定も同様に行ってください。
すべて設定すればそのままご使用になれますが、ファイルの共有を行いたい場合は、【ファイルを共有する】（69ページ）をご覧ください。

Windows 2000/Me/98

注意！

以下の説明画面は、Windows 2000を例にしています。

1 本製品を装着したパソコンの電源を入れます。

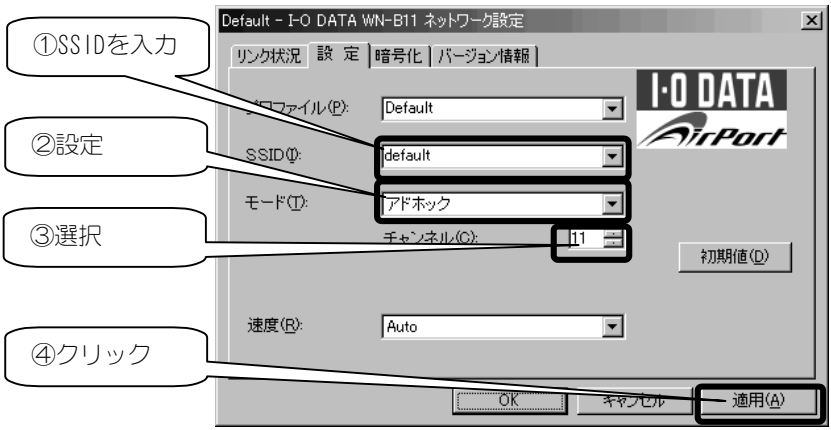
2 設定ユーティリティを起動します。

[スタート]→[プログラム]→ [WN-B11USBS] →[I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ]を順にクリックします。



Windows 2000/Me/98（つづき）

3 ①[設定]タブで、58ページでメモしたSSIDを入力します。
②[モード]を[アドホック]に設定します。
③[チャンネル]で、58ページでメモしたチャンネルを選択します。
④[適用]ボタンをクリックします。



参考

この画面で[プロファイル]の設定や、［暗号化］タブで[暗号化]の設定もできます。
詳しくは、【他の設定をする】（93ページ）をご覧ください。

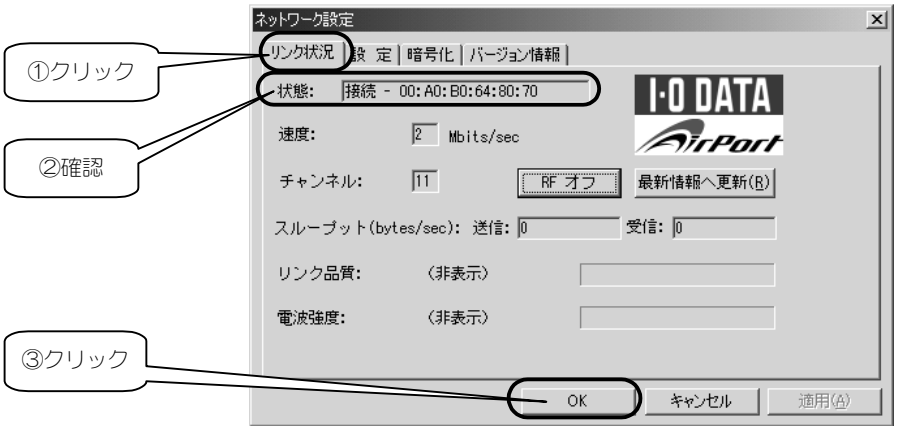
Windows 2000/Me/98（つづき）

4 正常に通信できていることを確認します。

①[リンク状況]タブをクリックします。

②正常に通信できている場合、【リンク状況】で［状態］が“接続. . .”と表示されます。

確認後、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



以上で設定は完了です。
このままご使用になれますが、ファイルの共有を行いたい場合は、【ファイルを共有する】（69ページ）をご覧ください。

MEMO

ファイルを共有する

ここでは、LAN内でファイルを共有するときの設定例を説明します。

①IPアドレスを確認する

本製品を接続するパソコンのIPアドレスを確認します。

▼

70ページ

②ファイルを共有する

ファイルを共有する方法を説明します。

76ページ



注意！

- **本書では、設定するプロトコルとして[TCP/IP]についてのみ説明しています。他のプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。**
- **弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサポート範囲としております。**

①IPアドレスを確認する

確認したIPアドレスを記入してください

ネットワーク上のすべてのパソコンには別々のIPアドレスが必要です。
ここでは、お使いのパソコンに設定するIPアドレスを確認します。

ネットワーク管理者にIPアドレスをご確認ください。
確認したIPアドレスを下に書き込んでください。
（詳しくは、【IPアドレスの設定例】（次ページ）、【IPアドレスのクラス】（73ページ）をご覧ください。）

▼確認した(決めた)IPアドレスを記入してください。

IP アドレス	. . .

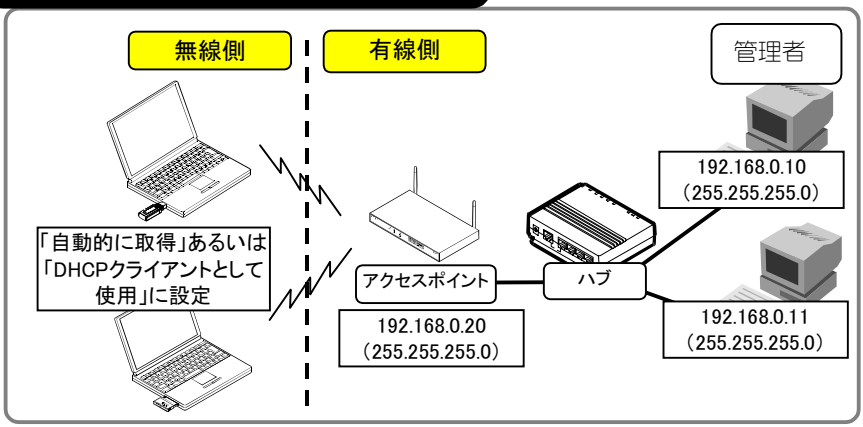
IPアドレスを確認したら、[②ファイルを共有する]（76ページ）へお進みください。

IPアドレスの設定例

以下および次ページはIPアドレスの設定例です。

インフラストラクチャモードの場合
（DHCPサーバーあり）

※アクセスポイント（ルータ）を DHCPサーバーとして使用してい る場合のIPアドレス設定例です。



内の上段はIPアドレス
内の下段はサブネットマスク

参考

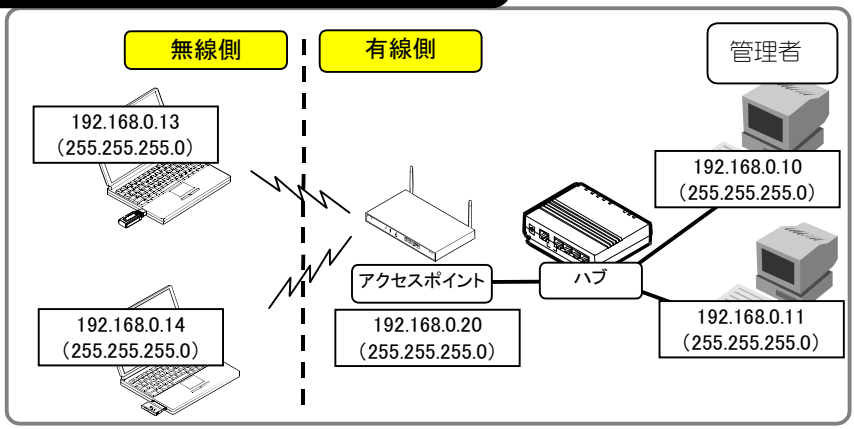
上記は、アクセスポイント（ルータ）の DHCP サーバー機能を利用した IP アドレスの設定例です。DHCP とは、各クライアントや Ethernet 機器へパソコン起動時に動的に IP アドレスやサブネットマスクを割り当てるプロトコルです。割り当てる側を DHCP サーバー（この場合、アクセスポイント）、割り当てられる側を DHCP クライアント（この場合、本製品を取り付けたパソコンなど）と呼びます。
アクセスポイントを DHCP サーバーに設定していれば、本製品を取り付けたパソコンなど、アクセスポイントに通信する側の IP アドレスを、「自動的に取得する」、あるいは「DHCP クライアントとして使用する」に設定しておけば、パソコン起動時に自動的にアクセスポイントから IP アドレスを取得できるため、固定の IP アドレスを設定する必要がなくなります。

注意！

アクセスポイントの電源が入っていないなどDHCPサーバー機能が動作していない場合や、正常にアクセスポイントと無線LAN接続されていない場合は、クライアント側のパソコンは、IPアドレスを取得できないため、「169.254.xxx.xxx」というIPアドレスが自動的に設定されます。

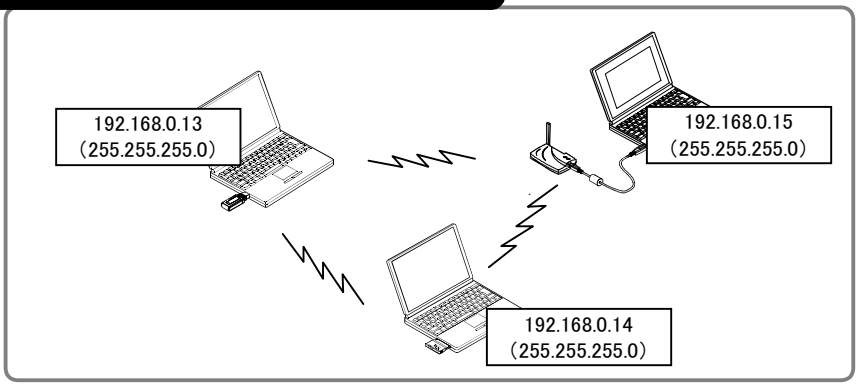
インフラストラクチャモードの場合
（固定IPアドレス設定： DHCPサーバなし）

※IPアドレスを固定のIPアドレスに設定して使用している場合の設定例です。



内の上段はIPアドレス
内の下段はサブネットマスク

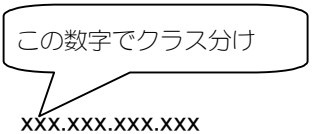
アドホックモードの場合



内の上段はIPアドレス
内の下段はサブネットマスク

IPアドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、３つのクラスに分かれます。
大規模なネットワークならば［クラスAのIPアドレス］、中規模なら［クラスBのIPアドレス］、小規模の場合は［クラスCのIPアドレス］となります。
同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。
実際には、IPアドレスは、ピリオドで区切られた４つの数字の羅列で構成されていて、４つのうち最初の数字で、クラスが分けられます。



クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの最初の数字※	クラス	用途（ネットワークを構成するパソコンの台数）
１～１２６	クラスA	大規模ネットワーク用（最大約 1600 万台）
１２８～１９１	クラスB	中規模ネットワーク用（最大約 65000 台）
１９２～２２３	クラスC	小規模ネットワーク用（最大 254 台）

※「127、224～255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台～数十台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラスA	10. 0. 0. 0　～　10. 255. 255. 255
クラスB	172. 16. 0. 0　～　172. 31. 255. 255
クラスC	192. 168. 0. 0　～　192. 168. 255. 255

IPアドレスの設定の確認

パソコンに設定しているIPアドレスの確認や、パソコン間での正常な通信（接続）の確認は、Windows標準のコマンドで行うことができます。

●設定したIPアドレスの確認方法

・Windows XPの場合

1 [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。
※Windows XP ServicePack1をお使いの場合は、[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。

3 IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

・Windows 2000の場合

1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

2 IPCONFIG と入力し、[ENTER]キーを押します。

3 IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

・Windows Me/98の場合

1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。

2 [名前]に WINIPCFG を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

3 お使いのアダプタを選択し、IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。
[IPアドレス]が「0.0.0.0」と表示された場合は、正常にIPアドレスが設定されていません。

●通信や接続が正しくできるかの確認方法(PINGコマンド)

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。



注意！

以下で使用する PING コマンドを使用するには、パソコンに TCP/IP がインストールされている必要があります。

1 [MS-DOSプロンプト]（またはコマンドプロンプト）を起動します。

・Windows XPの場合
［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。
※Windows XP ServicePack1をお使いの場合は、[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]をクリックします。

・Windows 2000の場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［コマンドプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows Meの場合
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。

・Windows 98の場合
［スタート］→［プログラム］→［MS-DOSプロンプト］を順にクリックして起動します。

2 以下のように入力し、[ENTER]キーを押します。

PING xxx.xxx.xxx.xxx（xxx.xxx.xxx.xxxは相手先のIPアドレス）
入力例） 相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は以下のように入力します。
PING 192.168.0.10

3 正常に相手先が表示されるか確認してください。

正常なら「Reply from xxx.xxx.xxx.xxx」などと表示されます。
正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」などと表示されます。

②ファイルを共有する

お使いのパソコンのOSごとに、方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XP】（次ページ）

●Windows 2000でご使用の場合
⇒【Windows 2000】（81ページ）

●Windows Me/98でご使用の場合
⇒【Windows Me/98】（86ページ）

Windows XP

1 **[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。**

2 **[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。**



参考

[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順4へお進みください。

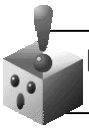


3 **[ネットワーク接続]をクリックします。**



4 **インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを選択し、[この接続の設定を変更する]をクリックします。**





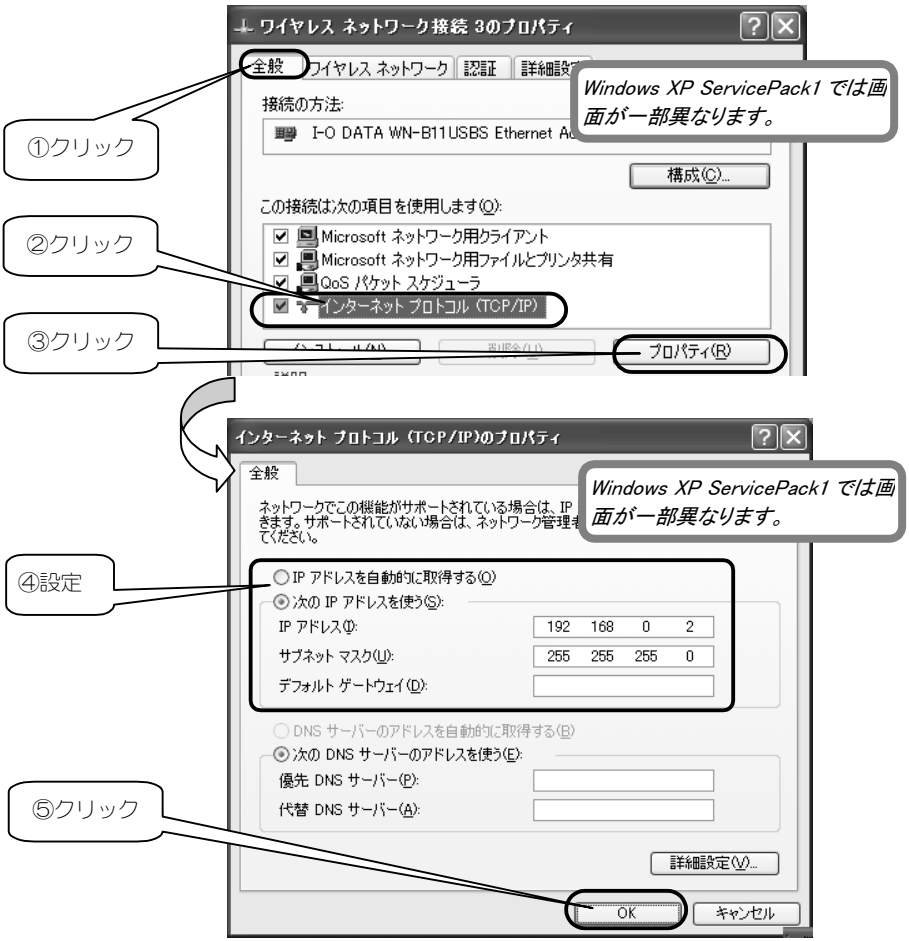
[ワイヤレスネットワーク接続]が表示されない場合は…

【困ったときには】の【本製品が正常に動作しない】119 ページをご覧ください。

Windows XP（つづき）

5 IPアドレスの設定を行います。

①［全般］タブをクリックします。
②［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックします。
③［プロパティ］ボタンをクリックします。
④【①IPアドレスを確認する】（70ページ）で確認した（決めた）IPアドレスを入力します。
⑤設定後、［OK］ボタンをクリックします。
⑥［ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ］画面に戻りますので、［OK］ボタンをクリックします。



Windows XP（つづき）

6 ［詳細設定］メニューの［ネットワークＩＤ］をクリックします。

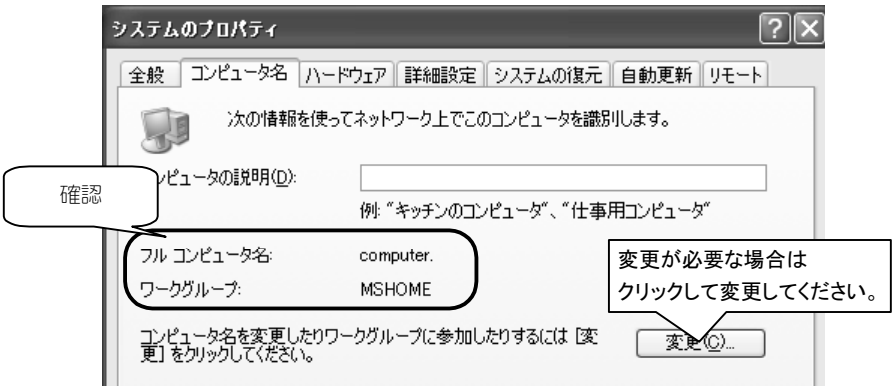


7 ［フル コンピュータ名］と［ワークグループ］が以下となっていることを確認してください。

フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、［変更］ボタンをクリックして、変更してください。



Windows XP（つづき）

8 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

詳細はWindows XPのヘルプを参照してください。

例：エクスプローラ上からの共有の設定



9 後は、［マイネットワーク］→［近くのコンピュータ］を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。



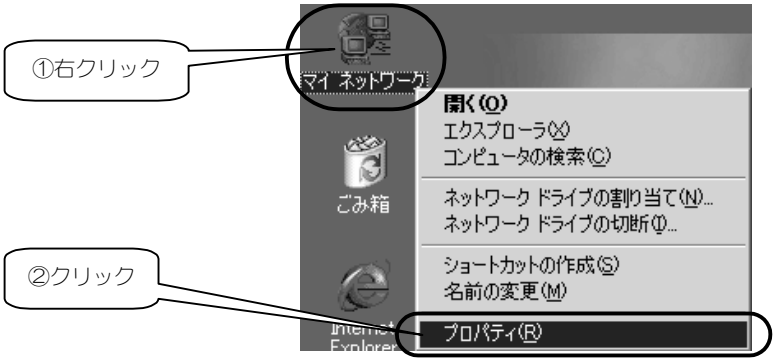
他のコンピュータ名が表示されない場合は…

【困ったときには】の 120 ページをご覧ください。

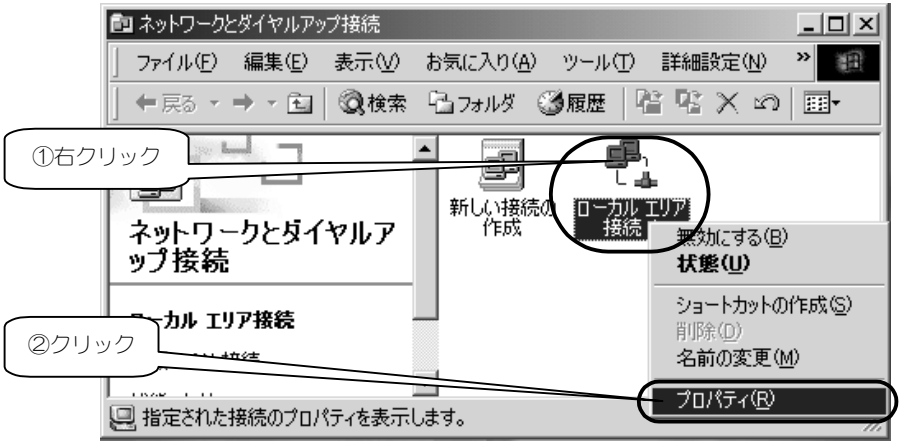
以上で設定は完了です。

Windows 2000

1 **[マイ ネットワーク]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**



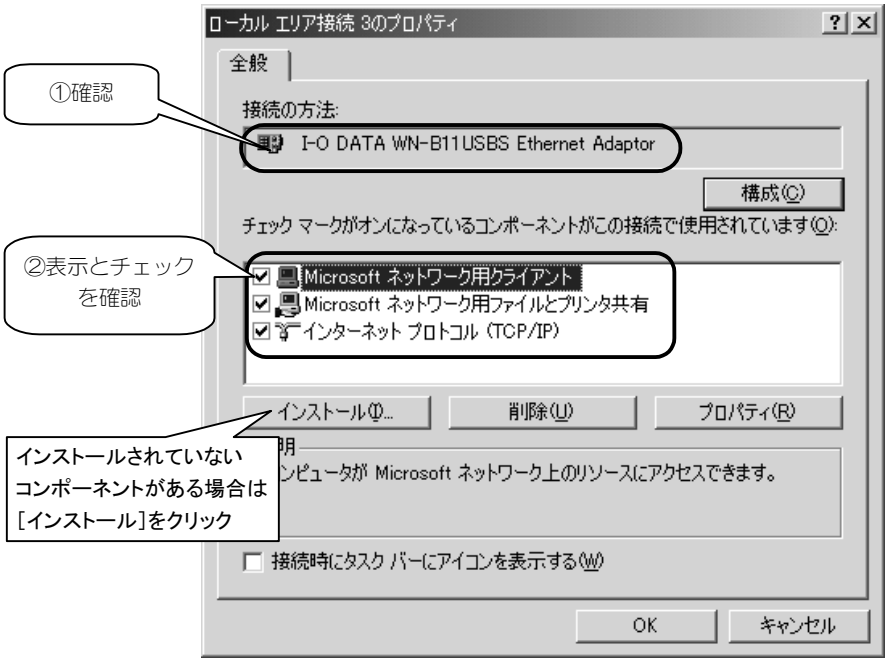
2 **[ローカルエリア接続]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。**



Windows 2000（つづき）

3 以下が表示され、チェックされていることを確認します。確認後、［OK］ボタンをクリックします。

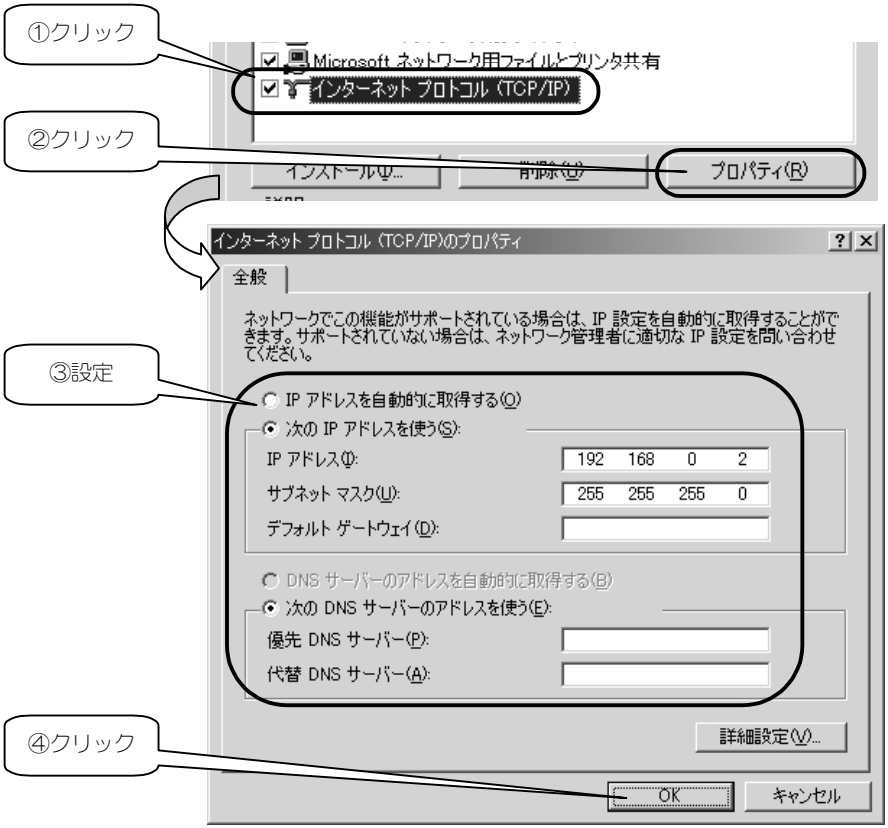
① ［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］の表示
② ［Microsoftネットワーク用クライアント］のチェック
［Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有］のチェック
［インターネットプロトコル（TCP/IP）］のチェック



Windows 2000（つづき）

4 IPアドレスを設定します。

①［インターネットプロトコル（TCP/IP）］をクリックします。
②［プロパティ］ボタンをクリックします。
③【①IPアドレスを確認する】（70ページ）で確認した（決めた）IPアドレスを入力します。
④［OK］ボタンをクリックします。



Windows 2000（つづき）

5 **［詳細設定］メニューの［ネットワークＩＤ］をクリックします。**

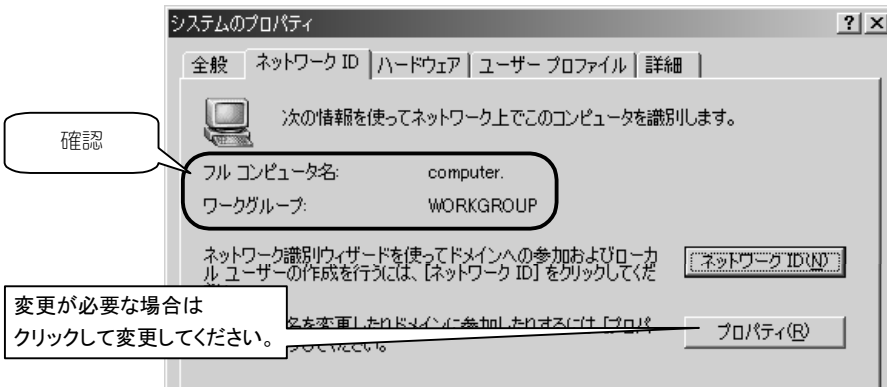


6 **［フル コンピュータ名］と［ワークグループ］が以下となっていることを確認してください。**

フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

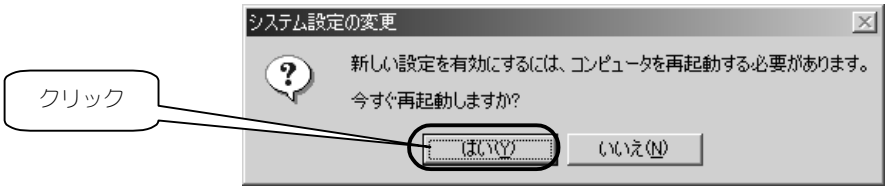
※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、［プロパティ］ボタンをクリックして、変更してください。



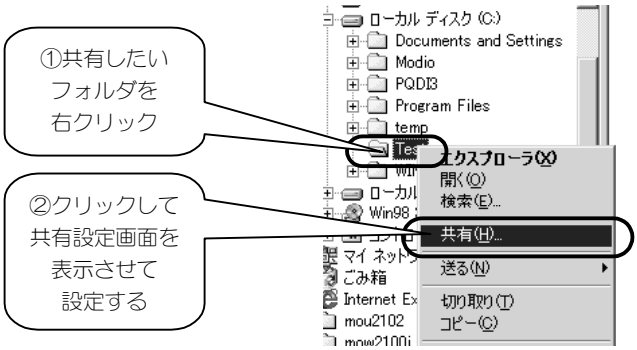
Windows 2000（つづき）

7 **[はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。**

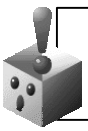


8 **このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。**（詳細はWindows 2000のヘルプを参照してください。）

（エクスプローラ上からの共有の設定）



9 **［マイネットワーク］→［近くのコンピュータ］を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。**



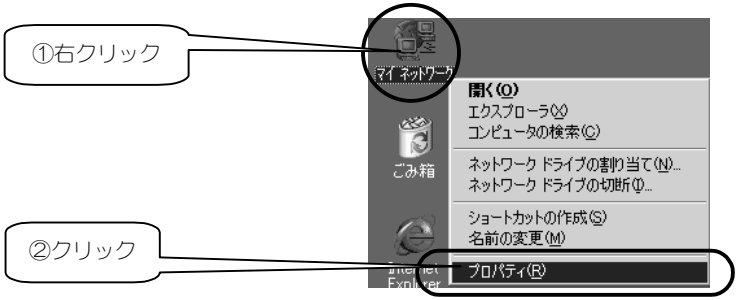
他のコンピュータ名が表示されない場合は…

【困ったときには】の120 ページをご覧ください。

以上で設定は完了です。

Windows Me/98

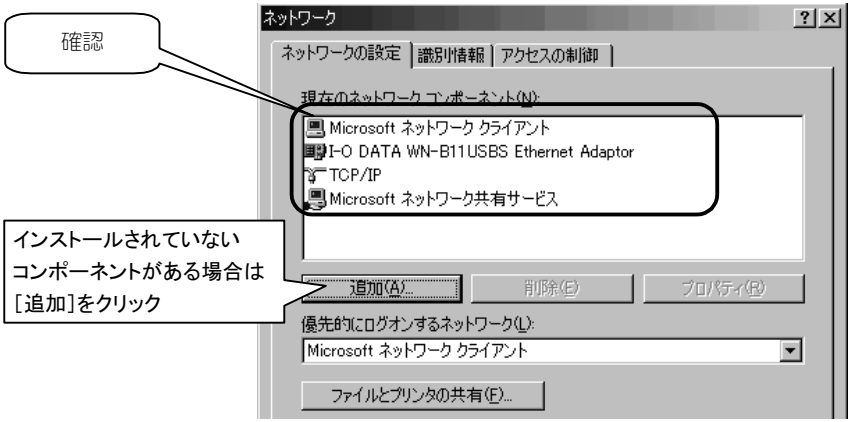
1 ［マイ ネットワーク］（ネットワークコンピュータ）を右クリックして、［プロパティ］をクリックします。



2 以下（のコンポーネント）が表示されているかを確認します。

- ［Microsoftネットワーククライアント］
- ［I-O DATA WN-B11/USBS Ethernet Adapter］
- ［TCP/IP］

  ※［TCP/IP］と表示されずに、［TCP/IP->I-O DATA WN-B11/USBS Ethernet Adapter］と表示されている場合もあります。
- ［Microsoftネットワーク共有サービス］



［I-O DATA WN-B11/USBS ……］が表示されていない場合は…

【困ったときには】の 116 ページをご覧ください。

Windows Me/98（つづき）

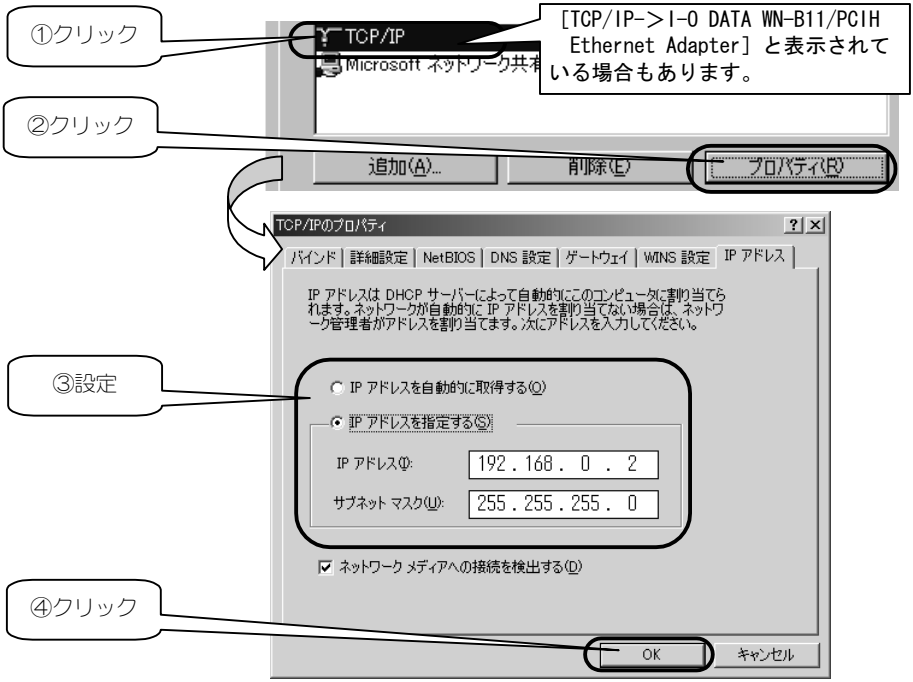
3 IPアドレスを設定します。

① [TCP/IP] （あるいは [TCP/IP->I-O DATA WN-B11/USBS Ethernet Adapter] ）をクリックします。

② [プロパティ] ボタンをクリックします。

③【①IPアドレスを確認する】（70ページ）で確認した（決めた）IPアドレスを入力します。

④ [OK] ボタンをクリックします。





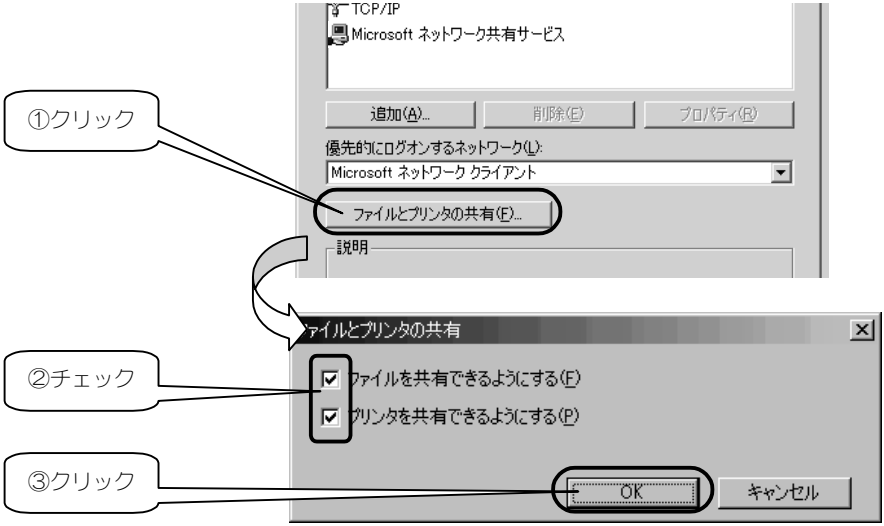
［TCP/IP－＞xxxxxxxxx］
は複数表示されているのに、
［TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11/USBS …］
の表示が無い場合は…

【困ったときには】の
122 ページをご覧ください。

Windows Me/98（つづき）

4 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。

［ファイルとプリンタの共有］ボタンをクリックし、共有したい項目をチェックします。チェック後、［OK］ボタンをクリックします。

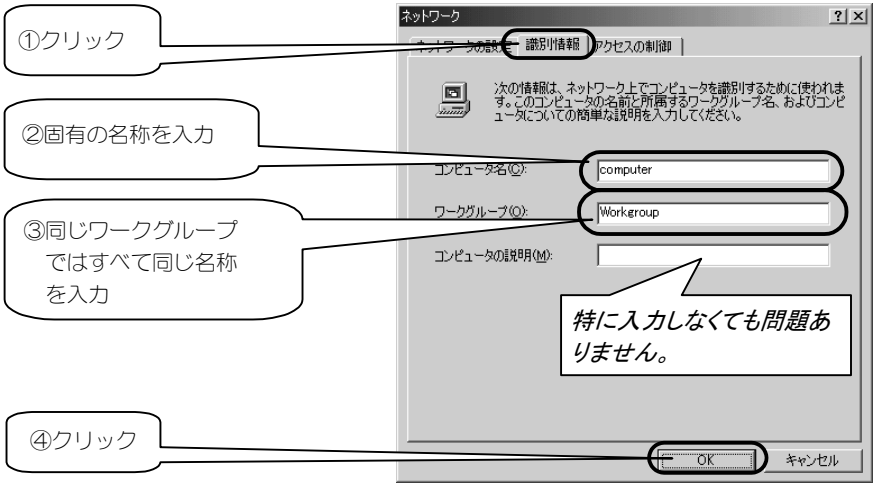


Windows Me/98（つづき）

5 **［識別情報］タブをクリックして、［コンピュータ名］と［ワークグループ］に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックしてください。**

コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。（それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。）※
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。（同じグループではすべて同じグループ名を指定します。）※ 本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。

※相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。



⇒次のような画面が表示された場合は…



①WindowsのCD-ROMを挿入します。

②［OK］ボタンをクリックします。

Windows Me/98（つづき）

⇒以下のような画面が表示された場合は…



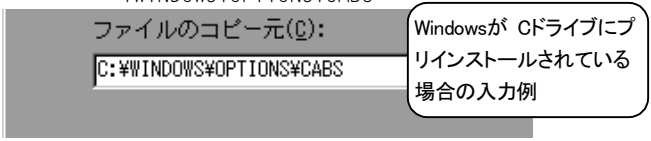
［ファイルのコピー元］に以下を入力し、［OK］ボタンをクリックします。

・Windows 98をご自分でインストールした場合

D:¥WIN98　　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）

・Windows 98プリインストールパソコンをお使いの場合

Windowsがインストールされているドライブの
¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS



・他のWindowsからWindows Meへアップグレードインストールした場合（CD-ROMからWindows Meをインストールした場合）

C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥INSTALL

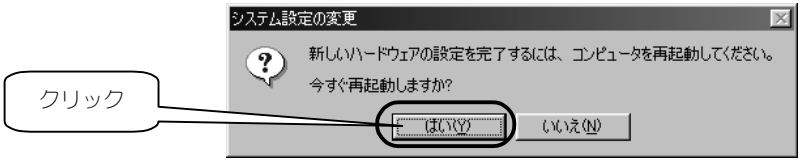
注意！

以下のアップグレードをした場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」は選択せず、CD-ROM ドライブを参照してください。

- **Windows 95 プリインストールモデルを、Windows 98（Second Edition 含む）へアップグレードした場合**
- **Windows 98プリインストールモデルをWindows 98 Second Editionへアップグレードした場合**

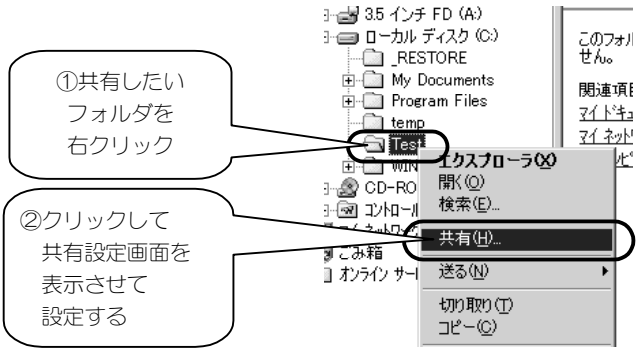
Windows Me/98（つづき）

6 **[はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。**

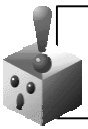


7 **このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい（共有したい）場合は、共有の設定をします。** （詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。）

（エクスプローラ上からの共有の設定）



8 **［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）をダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名が表示されます。**



他のコンピュータ名が表示されない場合は…

【困ったときには】の120ページをご覧ください。

以上で設定は完了です。

MEMO

他の設定をする

暗号化の設定や設定ユーティリティを使って設定を行う方法を説明します。設定ユーティリティを使用するのはWindows 2000/Me/98のみです。

設定ユーティリティを起動する

設定ユーティリティの起動方法を説明します。

94ページ

プロファイルを作る

プロファイルの作成方法を説明します。

95ページ

プロファイルを切り替える

複数作成したプロファイルを切り替える方法を説明します。

96ページ

暗号化する

暗号化の設定方法を説明します。

97ページ

リファレンス

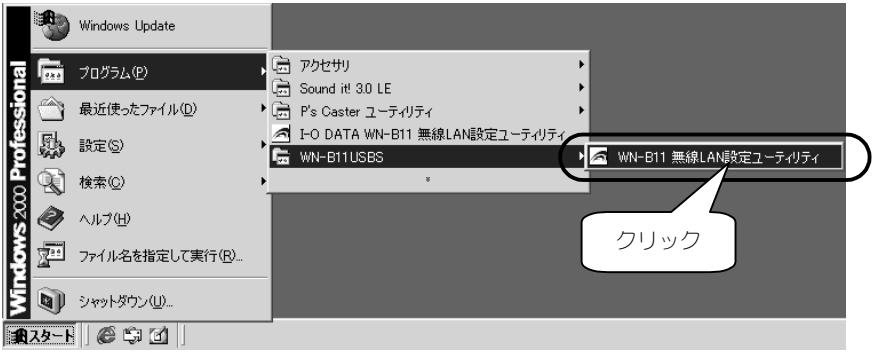
設定ユーティリティの詳細を説明します。

106ページ

設定ユーティリティを起動する

Windows 2000/Me/98で起動する

[スタート]→[プログラム]→ [WN-B11USBS] →[I-O DATA WN-B11無線LAN設定ユーティリティ]を順にクリックします。



プロファイルを作る

ホットスポットや会社など複数の環境で本製品を使用する場合に、事前に環境に合わせた設定を作成しておくことができます。ここでは、プロファイル（設定）を作成する方法を説明します。

①[プロファイル]に任意の文字列を入力します。

※半角60文字まで入力可(使用文字制限なし)

②[SSID]を入力します。

※半角英数字32文字まで入力可

③[モード]を選択します。

④暗号化する場合は、【暗号化する】（97ページ）で暗号化設定をします。

⑤[OK]ボタンをクリックします。

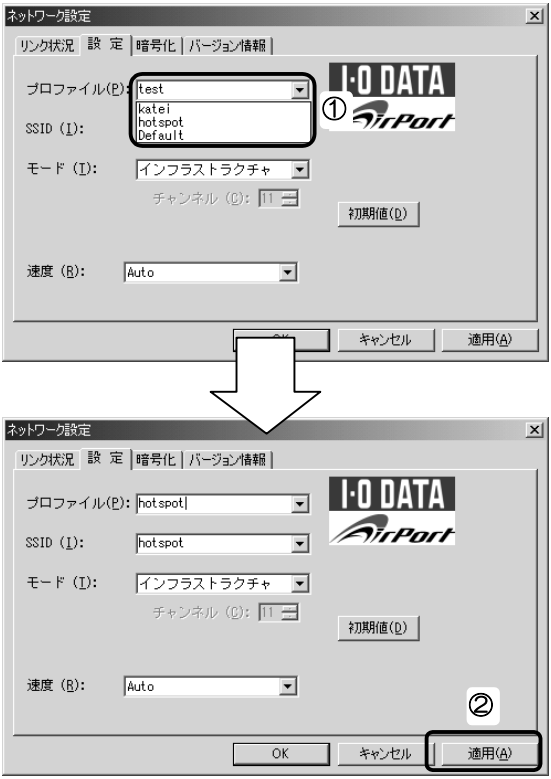
以上で、登録されました。



プロファイルを切り替える

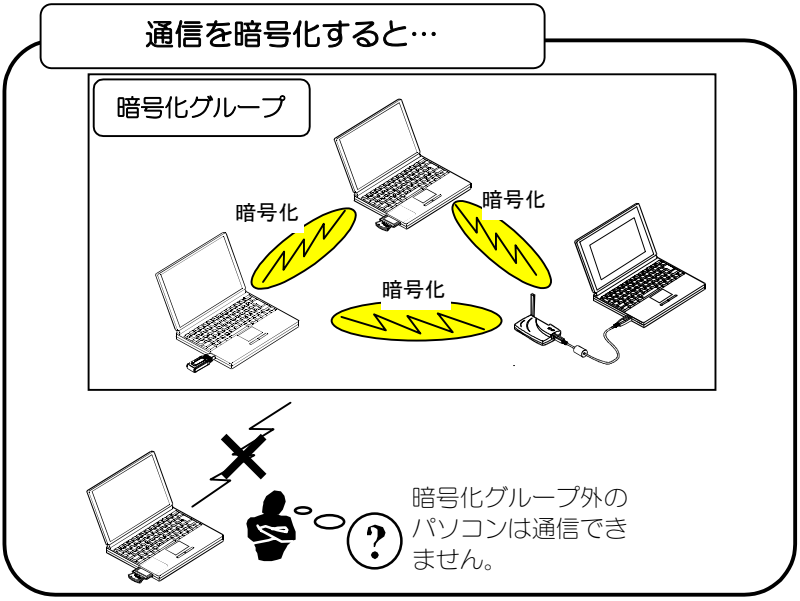
前ページで作成したプロファイルを切り替える方法を説明します。

①[プロファイル]にて切り替えたいプロファイルを選びます。
②[適用]ボタンをクリックします。
以上で、切り替わりました。



暗号化する

通信時に暗号化していない場合、電波の届く範囲であれば、通信内容を傍受される危険があります。本製品では、無線LANの暗号化の標準であるWEP（Wired Equivalent Privacy）での暗号化を行うことによって、傍受の危険を回避することができます。ここでは、本製品の通信を暗号化する方法を説明します。



注意！

暗号化を行う場合、暗号化して通信するすべてのパソコンで設定が必要です。アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号キーに合わせてください。

お使いのパソコンのOSごとに、設定方法が異なります。
以下の必要なページのみご覧ください。

●Windows XPでご使用の場合
⇒【Windows XPで設定する】（次ページ）

●Windows 2000/Me/98でご使用の場合
⇒【Windows 2000/Me/98で設定する】（102ページ）

Windows XPで設定する

1 **[スタート]→[コントロールパネル]をクリックします。**

2 **[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。**



参考

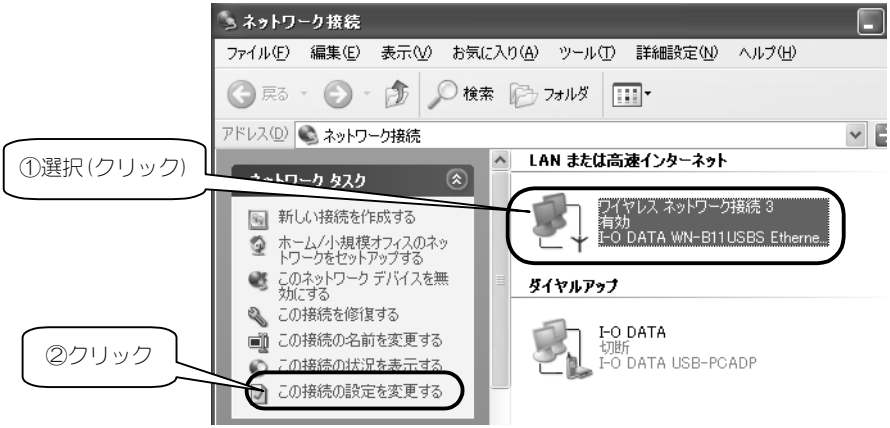
[クラシック表示]の場合は、[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックして手順4へお進みください。



3 **[ネットワーク接続]をクリックします。**



4 **インストール済みの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを選択し、[この接続の設定を変更する]をクリックします。**



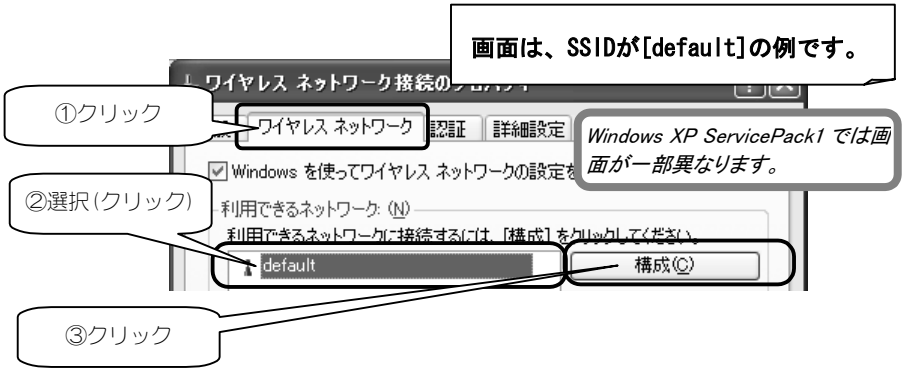
[ワイヤレスネットワーク接続]が表示されない場合は…

【困ったときには】の【本製品が正常に動作しない】119 ページをご覧ください。

Windows XPで設定する(つづき)

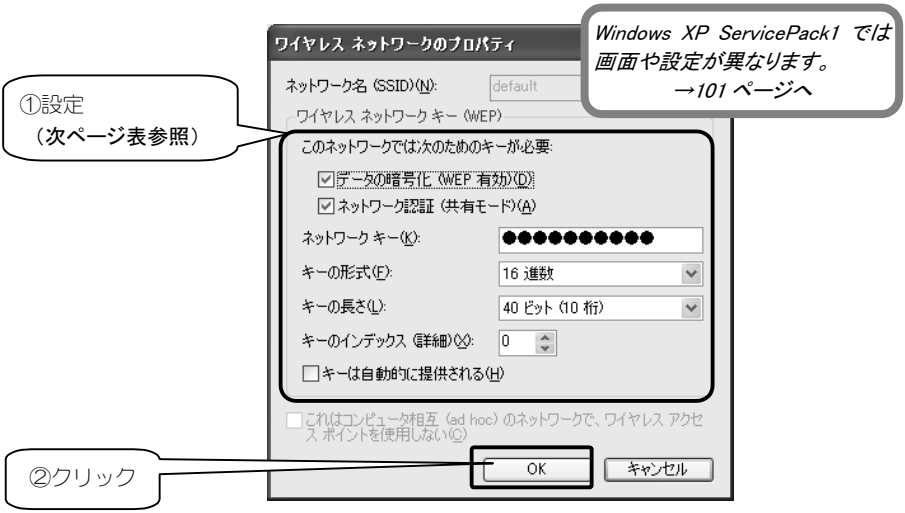
5 暗号化設定をするネットワークを選択します。

①[ワイヤレスネットワーク]タブをクリックします。
②暗号化設定をする接続を選択します。
③[構成]ボタンをクリックします。

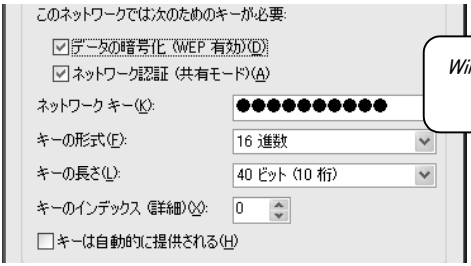


6 以下の画面で暗号化を設定し（詳細は次ページ表参照）、[OK]をクリックします。

※Windows XP ServicePack1をお使いの場合は101ページ参照



Windows XPで設定する（つづき）



Windows XP ServicePack1 をお使いの場合は次ページ参照

データの暗号化（WEP有効）	暗号化(WEP)を有効にする場合にチェックします。
ネットワーク認証（共有モード）	共有キー(シェアードキー)を使用する場合にチェックします
ネットワークキー	「キーの形式」に合わせた暗号キーを入力します。
キーの形式	暗号キーの形式を「ASCII文字」「16進数」から選択します。
キーの長さ※	暗号キーを入力する長さを以下から選択します。 *・ASCII文字の場合：*→「40ビット(5文字)」 「104ビット(13文字)」 *・16進数の場合：*→「40ビット(10桁)」 「104ビット(26桁)」
キーのインデックス（詳細）※	インデックスを0～3の範囲で指定します。 通常は0を指定します。
キーは自動的に提供される	ネットワークキーがアクセスポイント（ルータ）側から、自動で提供される環境の場合はチェックします。

※ *[キーの長さ]と[キーのインデックス]について*

Windows XPで使用している[キーの長さ]と[キーのインデックス]は、他のOSで使用している[キーの長さ]と[キーのインデックス]とで標記が異なる場合があります。
（本製品の場合、他のOSでは添付の「設定ユーティリティ」で[キーの長さ]と[キーのインデックス]を設定しますが、Windows XPと標記が異なります。）
詳細は、接続するネットワークの各無線LAN製品の取扱説明書を参照してください。

＜Windows XPと弊社製「設定ユーティリティ」での標記の違い＞

[キーの長さ]	
Windows XP	設定ユーティリティ
40ビット	64bit
104ビット	128bit

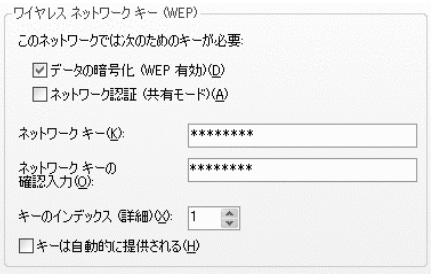
同じキーの長さです

[キーのインデックス]	
Windows XP	設定ユーティリティ
キー0	キー1
キー1	キー2
キー2	キー3
キー3	キー4

同じインデックスです

Windows XPで設定する（つづき）

Windows XP Service Pack1 をお使いの場合の暗号化設定



データの暗号化（WEP有効）	暗号化(WEP)を有効にする場合にチェックします。
ネットワーク認証（共有モード）	共有キー(シェアードキー)を使用する場合にチェックします
ネットワークキー	暗号キーを入力します。
ネットワークキーの確認入力	上記[ネットワークキー]と同じ暗号キーを入力します。
キーのインデックス（詳細）※	インデックスを1～4の範囲で指定します。 通常は1を指定します。
キーは自動的に提供される	ネットワークキーがアクセスポイント（ルータ）側から、自動で提供される環境の場合はチェックします。

Windows 2000/Me/98で設定する

注意！

以下の説明画面は、Windows 2000を例にしています。

1 設定ユーティリティを起動し、［設定］タブで暗号化するプロファイルを選択します。



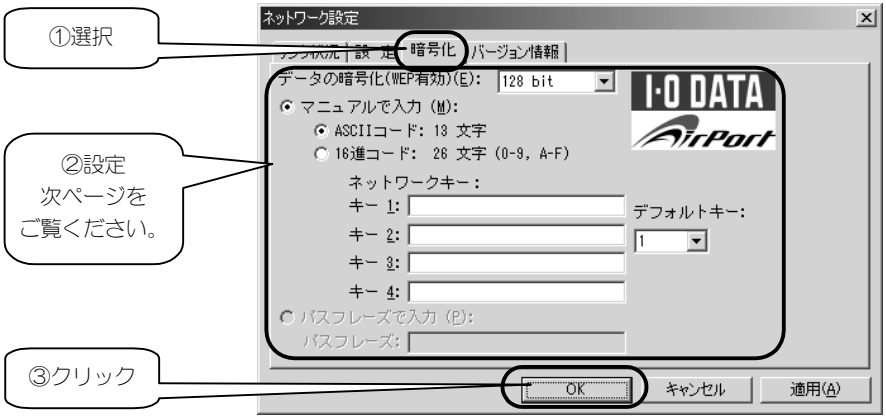
2 暗号化の設定をします。

①[暗号化]タブをクリックします。

②[暗号化(WEP)の設定]をします。

→詳しくは次ページをご覧ください。

③[OK]ボタンをクリックします。



Windows 2000/Me/98で設定する(つづき)

①[データの暗号化 (WEP有効)]を選択します。

→本製品と通信する無線LAN機器と同じ値を設定する必要があります。
通信する無線LAN機器の取扱説明書も参照してください。

なし	通信時の暗号化は行いません。
64 bit	64bitでの暗号化を行います。
128bit	128bitでの暗号化を行います。

※ Windows XPパソコンと通信時の注意

Windows XPでは、本設定は[キーの長さ]と標記されています。(100ページ参照)

<Windows XPと弊社製「設定ユーティリティ」での標記の違い>

Windows XPと設定ユーティリティでは、標記が異なりますが同じ設定です。

[キーの長さ]	
Windows XP	設定ユーティリティ
40ビット	64bit
104ビット	128bit

同じキーの長さです

[キーのインデックス]	
Windows XP	設定ユーティリティ
キー0	キー1
キー1	キー2
キー2	キー3
キー3	キー4

同じインデックスです



注意!

Windows XP ServicePack1の場合は、設定ユーティリティと同じ標記です。

②文字コードを選択します。

→本製品と通信する無線LAN機器と同じコードを選択する必要があります。

ASCIIコード	通信する無線LAN機器がASCIIコードでWEP設定している場合に選択します。
16進コード	通信する無線LAN機器が16進コードでWEP設定している場合に選択します。

Windows 2000/Me/98で設定する(つづき)

③キーを入力します。

→本製品と通信する無線LAN機器と同じキーを入力します。

キー (1～4)	0～9またはA～Fの文字列を入力できます。 (他社製品との暗号化については、次ページ参照)

④[デフォルトキー]を決めます。

[キー1]～[キー4]のうち、使用するキーを選択します。



注意！

- 本製品の WEP キーは、WN-B11/PCM などで使用していたパスフレーズとは互換性がありません。16 進コードまたは ASCII コードのみ互換性があります。
- [パスフレーズで入力]は使用できません。



参考

- [やり直し] ボタンで初期値に戻ります。
- 暗号化の [64bit] よりも [128bit] の方が強固な暗号化になりますが、暗号化処理により、無線LAN自体の速度が遅くなる場合があります。



参考

暗号キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について

本製品を含む WN-B11 シリーズでは、暗号キーとして 16 進コードでの暗号キー入力方式を採用していますが、他社製品には、５文字の英数字・記号で暗号キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。
これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の５文字で暗号キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの５文字の文字列を入力します。
WN-B11 シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの５文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。
各文字と 16 進コードの対応については次ページ表を参照してください。
〈例〉 文字で "WNB11" と設定している場合、
16進コードでは [57 4d 42 31 31] となります。

Windows 2000/Me/98で設定する（つづき）

文字	16進
!	21
″	22
#	23
$	24
%	25
&	26
'	27
(	28
)	29
*	2a
+	2b
,	2c
−	2d
.	2e

文字	16進
/	2f
0	30
1	31
2	32
3	33
4	34
5	35
6	36
7	37
8	38
9	39
:	3a
;	3b
<	3c

文字	16進
=	3d
>	3e
?	3f
@	40
A	41
B	42
C	43
D	44
E	45
F	46
G	47
H	48
I	49
J	4a

文字	16進
K	4b
L	4c
M	4d
N	4e
O	4f
P	50
Q	51
R	52
S	53
T	54
U	55
V	56
W	57
X	58

文字	16進
Y	59
Z	5a
[	5b
¥	5c
]	5d
^	5e
_	5f
`	60
a	61
b	62
c	63
d	64
e	65
f	66

文字	16進
g	67
h	68
I	69
j	6a
k	6b
l	6c
m	6d
n	6e
o	6f
p	70
q	71
r	72
s	73
t	74

文字	16進
u	75
v	76
w	77
x	78
y	79
z	7a
{	7b
|	7c
}	7d
~	7e

リファレンス

ここでは、添付の設定ユーティリティ（Windows 2000/Me/98用）の詳細について説明します。

通信設定の表示 …[リンク状況]

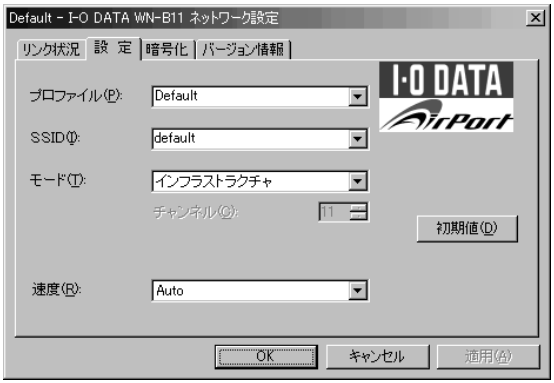
［リンク状況］タブでは、現在の通信状況を表示します。



項目	内容
状態	接続されている場合は、接続先のMACアドレスが表示されます。
速度	現在のリンク速度 (AUTO、11Mbps、5.5Mbps、AUTO 1or2Mbps)
チャンネル	現在のチャンネル(1～14ch)
スループット	転送速度(1秒間に何バイト送信されているか)
リンク品質	接続されている無線LAN機器とのリンク品質 (表示されているバーが多いほど高品質の通信を行っています。アドホックモードの場合は、非表示となります。)
電波強度	接続されている無線LAN機器との電波の強度 (表示されているバーが多いほど強い電波を受信しています。 アドホックモードの場合は、非表示となります。)
[RFオフ]ボタン	電波の送受信を停止します。再開する場合は、再度クリックします。
[最新の情報へ更新]ボタン	最新の情報を取得し、表示を更新します。

無線LANの設定 …[設定]

[設定] タブでは、無線LANの設定/登録を行うことができます。
登録されたプロファイル名が表示されます。



項目	内容
プロファイル	現在登録されているグループ名 *※半角60文字まで入力可(使用文字制限なし)*
SSID	設定されているSSID *※半角英数字32文字まで入力可(使用文字制限なし)*
モード	設定されているモード (インフラストラクチャ、アドホック)
チャンネル	インフラストラクチャモード時 …設定されているチャンネル(1～14ch) アドホックモード時 …チャンネルを指定できます。
[初期値]ボタン	設定を初期値に戻します。
速度	リンク速度を指定できます。 (1Mbps、2Mbps、5.5Mbps、11Mbps、Auto)

暗号化の設定 …[暗号化]

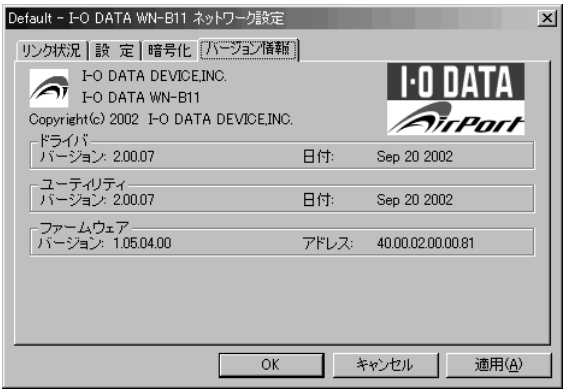
[暗号化] タブでは、暗号化の設定ができます。



項目	内容
データの暗号化(WEP有効)	暗号化するキーの長さを指定します。 以下から選択できます。 ・*[なし]*:暗号化はおこないません。 ・*[64bit]*:64bitでの暗号化を行います。 ・*[128bit]*:128bitでの暗号化を行います。
マニュアルで入力	・*ASCIIコード* ASCIIコードで暗号化キーを入力する場合にチェックします。 ・*16進コード* 16進コードで暗号化キーを入力する場合にチェックします。
ネットワークキー(キー1～4)	暗号化キーのコードを入力します。 0～9またはA～Fの文字列を入力できます。
デフォルトキー	[キー1]～[キー4]のうち、使用するキーを選択します。
[やり直し]ボタン	設定をすべて初期値に戻します。
パスフレーズで入力	使用できません。

本ユーティリティについて …[バージョン]

[バージョン] タブでは、設定ユーティリティのバージョンなどを確認できます。



MEMO

その他

本製品を削除する（アンインストール）

インストールした情報を削除します。 112ページ

困ったときには

本製品を使用して異常があった場合にご覧ください。 114ページ

用語解説

用語について説明します。 125ページ

仕様

本製品の仕様です。 128ページ

本製品を削除する(アンインストール)

インストールしたドライバソフトやユーティリティソフトを削除します。

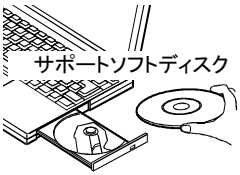
Windows XPで削除する

Windows XPでは以下の手順で削除します。

注意！

本製品をUSBポートから取り外してから行ってください。

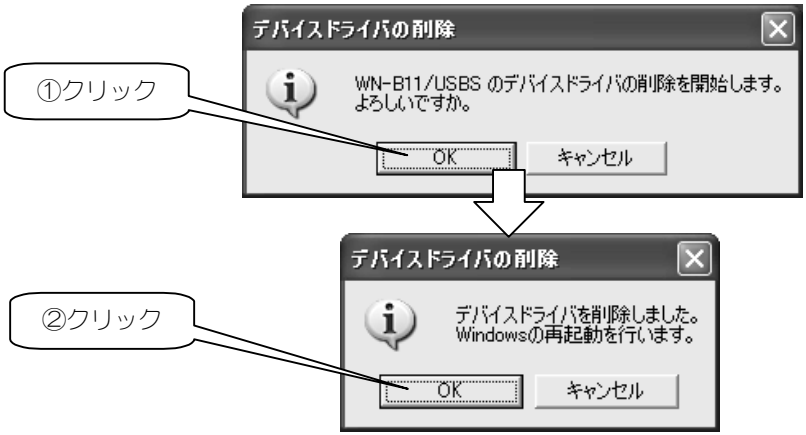
1 **サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。**



2 **[マイコンピュータ]から、CD-ROMの[UNINST]アイコンをダブルクリックします。**



3 **画面の指示にしたがってください。**



これで削除は完了です。

Windows 2000/Me/98で削除する

Windows 2000/Me/98をお使いの場合は、以下の手順を行ってください。

注意！

本製品をUSBポートから取り外してから行ってください。

1 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開きます。**

2 **[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[アプリケーションの追加と削除]を開きます。**

3 **[I-O DATA WN-B11USBS 無線LAN設定ユーティリティ]を削除します。**

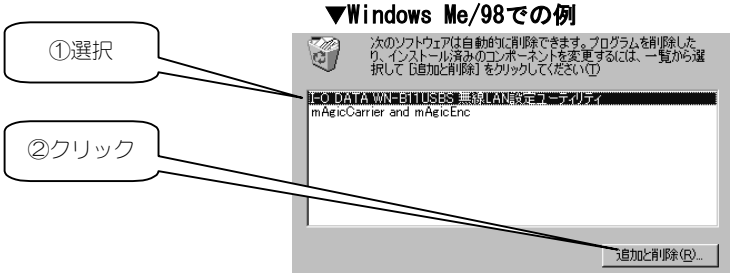
①[I-O DATA WN-B11USBS 無線LAN設定ユーティリティ]を選択します。

②[変更/削除]（または[追加と削除]）ボタンをクリックします。

▼Windows 2000での例



▼Windows Me/98での例



後は画面の指示にしたがってください。
これで削除は完了です。

困ったときには

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

弊社ホームページをご覧ください

サポートWebページ内には、過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。こちらも参考にしてください。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q＆A Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすると解決することがあります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新 サポートソフト

状態	参照ページ
本製品を取り付けてもLEDランプが点灯/点滅しない	116
他社アクセスポイントで、空白やANYというSSIDを設定したアダプタの接続を許可しない設定にした場合、本製品が通信できない	
［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］が表示されない	
［デバイスマネージャ］の確認で、［不明なデバイス］と表示された	
CD-ROMドライブがない、または、USB接続のCD-ROMドライブを使っているので、インストールできない	117
［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］の頭に、！マークがついている	119
本製品が正常に動作しない	
［ネットワーク］画面で、［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］が表示されない	

状態	参照ページ
［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）に、他のコンピュータ名が表示されない	１２０
設定ユーティリティがインストールできない	１２１
（Windows XPのみ） ［利用できるネットワーク］に確認したSSIDが表示されない	
（Windows Me/98のみ） ［ネットワーク］画面に、 ［TCP/IP－＞xxxxxxxx］は複数表示されているのに、 ［TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］ が表示されていない	１２２
（Windows Me/98のみ） ［マイネットワーク］または［ネットワークコンピュータ］アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない。	

トラブルの状態と対処

本製品を取り付けてもLEDランプが点灯/点滅しない

原因1	本製品を取り付けているUSBポートが不安定である。
対処1	一度USBポートから抜き差しを行ってみてください。
対処2	別のUSBポートに取り付けてみてください。

原因2	パワーマネジメント機能がONになっている。
対処	本製品を取り外してから、パワーマネジメント機能をOFFにします。 再度、本製品を取り付けてください。

他社アクセスポイントで、空白やANYというSSIDを設定したアダプタの接続を許可しない設定にした場合、本製品が通信できない

原因	本製品は製品仕様上この設定では接続できない。
対処	アクセスポイント側で、「空白やANYのSSIDを持ったアダプタの接続を許可する設定」にしてご利用ください。

［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］が表示されない

原因	本製品を正しく取り付けていない。
対処1	本製品が正しく取り付けられているか確認してください。
対処2	一度USBポートから抜き差しを行ってみてください。

［デバイスマネージャ］の確認で、［不明なデバイス］と表示された

対処	一度USBポートから抜き差しを行ってみてください。

CD-ROMドライブがない、または、USB接続のCD-ROMドライブを使っているので、インストールできない

対処　下記の手順にしたがってください。

USB接続でCD-ROMドライブをお使いの場合

パソコンにUSBポートが1つのみで、かつ、USB接続のCD-ROMドライブをお使いの場合、インストール時にCD-ROMドライブが使えません。
以下の方法で「サポートソフト」の内容をハードディスクにコピーしておいてください。

1　パソコンにCD-ROMドライブを接続し、パソコンの電源を入れます。

2　①エクスプローラを起動します。

・Windows XPの場合

[スタート]→[すべてのプログラム]（または［プログラム］）→［アクセサリ］→[エクスプローラ]を順にクリックします。

・Windows 2000の場合

[スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]を順にクリックします。

・Windows Me/98の場合

[スタート]→[プログラム]→[エクスプローラ]を順にクリックします。

②[すべてのファイルを表示する]に設定します。

1. ［ツール］メニューの［フォルダ オプション］を選びます。
2. ［表示］タブに移動し、［すべてのファイルとフォルダを表示する］をチェックします。（Windows XPの場合は、［表示］タブの［詳細設定］欄にあります。）
3. [OK] ボタンをクリックします。



参考

[ツール]メニューの[フォルダ オプション]が無い場合、以下の手順で設定します。
①[表示]メニューの[フォルダ オプション]を選びます。
②[表示]タブの[すべてのファイルを表示する]をチェックします。
③[OK]ボタンをクリックします。

3 CD-ROMドライブに「サポートソフト」ディスクをセットします。

4 ハードディスクドライブ（Windowsなどがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダ（ディレクトリ）を作成します。

5 「サポートソフト」ディスクの内容をすべて手順**4** で作成したフォルダ（ディレクトリ）にコピーします。

インストールの手順内では、手順**4**で作成したフォルダを指定してください。

CD-ROMドライブがない場合

パソコンにCD-ROMドライブが無い場合は、以下を行ってください。

1 インターネット上の弊社ホームページ（http://www.iodata.jp/lib/）より、本製品添付のサポートソフトのファイルを入手します。

2 ハードディスクドライブ（Windowsがインストールされているドライブ）に、任意のフォルダを作成し、入手したファイルをそのフォルダで展開してください。

インストールの手順内では、ここで作成したフォルダを指定してください。

［デバイスマネージャ］の確認で、［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］の頭に、！マークがついている

原因	パソコンを再起動していない。
対処	パソコンを一度再起動します。再起動後、【③インストール状態を確認する】（Windows XPでは20ページ、Windows 2000/Me/98では47ページ）の手順で再度確認してみてください。

本製品が正常に動作しない

原因1	本製品を正しく取り付けていない。
対処	本製品が正しく取り付けられているか確認してください。
原因2	間違ったドライバがすでにインストールされている、または、インストール時に［スキップ］ボタンや［キャンセル］ボタンなどをクリックして中断したためにドライバが正常にインストールされていない。
対処	［デバイスマネージャ］の一覧に［？その他のデバイス］が無いかご確認ください。 ［？その他のデバイス］がある場合で、さらにその下に、［I-O DATA WN-B11USBS…］が無いかご確認ください。 ある場合は、［イーサネットコントローラ］をクリックし、［削除］ボタンで削除後、パソコンを再起動してください。 （Windows XPおよびWidows 2000の場合は、［イーサネットコントローラ］を右クリックし、メニュー内の［削除］をクリックして削除後、パソコンを再起動してください。） 再起動後、再度インストールしてください。
対処	［デバイスマネージャ］一覧→［ネットワークアダプタ］の［イーサネットコントローラ］の頭に！マークがないかご確認ください。 ある場合は、パソコンを一度再起動してください。

［ネットワーク］画面で、［I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter］が表示されない

対処	上記の**【本製品が正常に動作しない】**をご覧ください。

［マイネットワーク］（ネットワークコンピュータ）に、他のコンピュータ名が表示されない

原因1	本製品を正しく取り付けていない。
対処	本製品が正しく取り付けられているか確認してください。
原因2	《アクセスポイントを使用していない場合》 通信先と同じSS IDを設定していない。
対処	通信先と同じSS IDにする必要があります。SS IDを同じ値にしてください。
原因3	《アクセスポイントを使用していない場合》 通信先のパソコンの通信チャンネルの値を同一にしていない。
対処	アクセスポイントが無い場合は、通信先と同じ通信チャンネルにする必要があります。通信チャンネルを同じ値にしてください。
原因4	《アクセスポイントを使用していない場合》 通信先のパソコンと同じワークグループ名が指定されていない。
対処	【ファイルを共有する】(69ページ)の各OSの項を参照して、ネットワーク上のすべてのパソコンに対し、同じワークグループ名を指定してください。
原因5	《アクセスポイントを使用している場合》 アクセスポイントと同じSS IDを設定していない。
対処	アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントと同じSS IDにする必要があります。SS IDを同じ値にしてください。
原因6	IPアドレスの設定が間違っている。
対処	正しく設定してください。（【ファイルを共有する】69ページ参照）
原因7	無線状態が悪く、電波が届かない。
対処	無線間の距離を短くしたり、障害物を取り除いたり、通信チャンネルを変更してから、再度試してみてください。

設定ユーティリティがインストールできない（以下のようなエラーとなる）

「InstallShieldエンジン(iKernel.exe)をインストールできませんでした。
システムは、指定されたデバイスからは読み取れません。」

原因	パソコンに常駐しているアプリケーションが、InstallShieldの動作の妨げになっている。
対処	設定ユーティリティをインストールする場合のみ、常駐しているアプリケーションを常駐解除してください。 アプリケーションの常駐解除方法は、各アプリケーションの取扱説明書などをご覧ください。（「設定ユーティリティ」のインストール時のみのもので、インストール後は、常駐してもかまいません。）

（Windows XPのみ）［利用できるネットワーク］に確認したSSIDが表示されない

原因	お使いのアクセスポイントがSSIDを通知しないタイプのものである。
対処	①[優先するネットワーク]内の、[追加]ボタンをクリックします。 ②[ネットワーク名（SSID）]に、お使いのアクセスポイントのSSIDを入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。

(Windows Me/98のみ)
［ネットワーク］画面に、［TCP/IP－＞xxxxxxxx]は複数表示されているのに、［TCP/IP－＞I-O DATA WN-B11USBS Ethernet Adapter]が表示されていない

原因	登録されているLANアダプタの数が多い。 （登録できるLANアダプタの数には、制限があります。）
対処	［ネットワーク］画面で、必要の無い、あるいは使用していないLANアダプタをクリックして、［削除］ボタンで削除してください。 **●必要の無いLANアダプタの例** ・以前使用していたが、現在使用していないLANアダプタ ・赤外線通信を行わない場合の「赤外線通信アダプタ」 **※赤外線通信アダプタの名称は、パソコン本体により異なります。 また、パソコン本体のBIOSの設定が必要となる場合がありますので、詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。** ・インターネット・プロバイダに「AOL」を使用していない場合の「AOL Adapter」および「AOL Dialup Adapter」

(Windows Me/98のみ)
[マイネットワーク]または[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックしてもワークグループ名アイコンや他のパソコンが表示されない。

原因	Windowsのネットワーク機能が正常に動作していない。
対処	次ページの【ネットワーク機能を確認する】を参照してください。

・ネットワーク機能を確認する

正常に組み込まれなかったネットワークに関するものを以下の順番で削除を行ってください。

1 [マイコンピュータ]→[コントロールパネル]→[ネットワーク]を開きます。

2 [ネットワーク]画面に表示される内容を次ページの種類順に削除してください。

注意！

削除する順番が異なると、ネットワークがうまく構成し直せなくなる場合がありますので、必ず下記の順で削除してください。

＜削除する順番＞

1) サービスをすべて削除します。



[Microsoft ネットワーク共有サービス]など[xxxx 共有サービス]という名称のものが該当します。

サービスの削除後は、［ネットワーク］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

2) クライアントをすべて削除します。



[Microsoft ネットワーククライアント]、[Microsoft ファミリログオン]など[xxxxクライアント]という名称のものが該当します。

［コントロールパネル］→［ネットワーク］を開いて、クライアントをすべて削除します。サービスの削除後は、［ネットワーク］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

3) プロトコルをすべて削除します。



[TCP/IP(TCP/IP->xxxx)]、[NetBEUI(NetBEUI->xxxx)]、[IPX/SPX(IPX/SPX->xxxx)という名称のものが該当します。

プロトコルの削除後は、［ネットワーク］画面で［OK］ボタンをクリックし、画面を閉じます。その後に、Windowsの再起動を要求されますので、再起動を行ってください。

3 [コントロールパネル]→[ネットワーク]を開くと、アダプタ関連が残ります。その状態になりましたら、お客様が接続するネットワーク環境に必要なものを以下の順に追加を行います。

＜追加する順番＞

1) クライアントとプロトコルを追加します。

*※*クライアントを追加しますと、プロトコルも一緒に追加されます。

追加する方法は、以下の通りです。

① [追加]ボタンをクリックします。
② [クライアント]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
③ [製造元]で[Microsoft]を選択し、[クライアント]で必要なプロトコルの名称([Microsoft ネットワーククライアント]など)をクリックし選択します。
④ [OK]ボタンをクリックします。
⑤ クライアントとプロトコルが追加されたことを確認します。

2) サービスを追加します。

追加する方法は、以下の通りです。

① [追加]ボタンをクリックします。
② [サービス]をクリック後、[追加]ボタンをクリックします。
③ [製造元]で[Microsoft]を選択し、[サービス]で必要なサービスの名称([Microsoft ネットワーク共有サービス]など)をクリックし選択します。
④ [OK]ボタンをクリックします。
⑤ サービスが追加されたことを確認します。

4 [優先的にログオンする]は、上記にて追加し直したクライアントを選択してください。

5 以上の設定を行って再起動した際、ネットワークへのログオン画面が表示されると思います。ここでは、キャンセルせずに必ず[OK]ボタンをクリックしてください。(パスワードは未入力でも可)

用語解説

Ad hoc[アドホック]

アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。
他にインフラストラクチャモード（Infrastructure mode）があります。

DHCPサーバ(Dynamic Host Configuration Protocol Server)

DHCPとは各クライアントやEthernet機器へ起動時に動的にIPアドレスを割り当て、
終了時にIPアドレスを回収するためのプロトコルです。
同時にゲートウェイアドレスやドメイン名、サブネットマスクその他の情報を
ネットワーク上のクライアントやEthernet機器へ通知することもできます。

この動的にIPアドレスの割当を行う側の機器がDHCPサーバと呼ばれます。
ダイアルアップルータ等の機器もDHCPサーバの機能を持っています。

DS-SS[直接拡散・スペクトラム拡散]

無線通信における変調方式の１つです。
干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

Ethernet[イーサネット]

米国ゼロックス社、ディジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式です。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CDアクセス、論理バストポロジー、同軸ケーブルを使用して構成されていました。
後にIEEE802.3として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義されました。

IEEE802.11

無線LANの国際的な標準規格です。
IEEE802.11bでは、通信速度が11Mbpsまで拡張されています。

Infrastructure［インフラストラクチャ］

アクセスポイントを介して通信する形態です。

MACアドレス（Media Access Control Address）

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。
MACアドレスは、先頭からの３バイトのベンダーコードと残り３バイトのユーザコードの６バイトで構成されています。
ベンダーコードはIEEEが管理／割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器のメーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。
Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

Mbps（Megabits per second）［メガビーピーエス］

１秒間に伝送するデータの単位です。
11Mbpsは１秒間に11メガビットのデータを伝送できます。

SS ID（Service Set ID）［エスエスアイディー］

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子（ID）です。
SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。

TCP/IP（Transmission Control Protocol/Internet Protocol）

主にインターネット上などで使用される基本プロトコルの１つです。

WEP（Wired Equivalent Privacy）

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。
各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。
暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

アクセスポイント

インフラストラクチャモード（Infrastructure mode）での通信の中継点となるポイントです。
他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。
有線LANと無線LANの中継点ともなります。

チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。
チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

ピアツーピア接続

サーバ／クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

ローミング機能

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。
その場合、それぞれのアクセスポイントのSS IDとWEPが同じ設定である必要があります。

仕様

商品名	USBスティック型IEEE802.11b準拠無線LAN USBアダプタ
製品型番	WN-B11/USBS
規格	国際規格：IEEE802.11, IEEE802.11b 国内規格：ARIB STD-33, ARIB STD-T66
周波数帯域	2.4GHz帯　(2.412～2.484GHz)
チャンネル	1ch～14ch
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)
伝送速度	1Mbps, 2Mbps, 5.5Mbps, 11Mbps
変調方式	1Mbps　：DBPSK 2Mbps　：DQPSK 5.5Mbps,11Mbps：CCK
無線設備の種別	小電力データ通信システム
データ到達距離（最大）	屋内：約60m、屋外：約150m ※これらの値は、弊社アクセスポイント（WN-B11/AXP）との最大データ到達距離を計測したものです。（環境条件により変化します。）
セキュリティ方式	WEP（Wired Equivalent Privacy）， SS ID（Service Set ID） ※SS IDはアクセスポイント使用時
アクセス方式	アドホック（Ad hoc） インフラストラクチャ（Infrastructure） ※インフラストラクチャはアクセスポイント使用時
端末インターフェイス	USB 1.1準拠
使用電源	DC5.0V±5%
消費電力	DC5.0V:1.1W（typ.）
使用温度範囲	0℃～+40℃
使用湿度範囲	35%～80%（結露しないこと）
外形寸法	80.0(W)×25.5(H)×13.0(D) mm （キャップ部を除く）
質量	約14g （キャップ部を除く）
適応規格	VCCI classB、TELEC
認定番号	01NYDA1318、01GZDA1176

アフターサービス

① まず、弊社ホームページをご確認ください。

本書【困ったときには】で解決できない場合は、サポートWebページ内の「製品Q&A、Newsなど」もご覧ください。過去にサポートセンターに寄せられた事例なども紹介されています。

http://www.iodata.jp/support/

製品Q&A
Newsなど

添付のサポートソフトをバージョンアップすることで解決できる場合があります。下記の弊社サポート・ライブラリから最新のサポートソフトをダウンロードしてお試しください。

http://www.iodata.jp/lib/

最新
サポートソフト

② それでも解決できない場合は…

住所：　〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　サポートセンター
電話：　本社…076-260-3644　東京…03-3254-1144
※受付時間　9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）
FAX：　本社…076-260-3360　東京…03-3254-9055
インターネット：　http://www.iodata.jp/support/

・お知らせいただく事項について

サポートセンターへお問い合わせいただく際は、事前に以下の事項をご用意ください。

1．ご使用の弊社製品名
2．ご使用のパソコン本体の型番
3．ご使用のOSとサポートソフトのバージョン
4．トラブルが起こった状態、トラブルの内容、現在の状態（画面の状態やエラーメッセージなどの内容）

修理について

修理の前に

故障かな？と思ったときは、
①本書をもう一度ご覧いただき、設定などをご確認ください。
②弊社サポートセンターへお問い合わせください。

故障と判断された場合は、下記内容を参照して、本製品をお送りください。

修理について

本製品の修理をご依頼される場合は、以下の事項をご確認ください。

●お客様が貼られたシールなどについて

修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。
その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。

●修理金額について

・保証期間中は、無料にて修理いたします。
ただし、ハードウェア保証書に記載されている「保証規定」に該当する場合は、有料となります。
※保証期間については、ハードウェア保証書をご覧ください。

・保証期間が終了した場合は、有料にて修理いたします。
※弊社が販売終了してから一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

・お送りいただいた後、有料修理となった場合のみ、往復はがきにて修理金額をご案内いたします。
修理するかをご検討の上、検討結果を記入してご返送ください。
（ご依頼時にFAX番号をお知らせいただければ、修理金額をFAXにて連絡させていただきます。）

修理について（つづき）

修理品の依頼

本製品の修理をご依頼される場合は、以下を行ってください。

●メモに控え、お手元に置いてください

お送りいただく製品の製品名、ハードウェアシリアルNO.、お送りいただいた日時をメモに控え、お手元に置いてください。

●これらを用意してください

・必要事項を記入した本製品のハードウェア保証書（コピー不可）
　※ただし、保証期間が終了した場合は、必要ありません。
・下の内容を書いたもの
　返送先［住所/氏名/(あれば)FAX番号］,日中にご連絡できるお電話番号,
　ご使用環境（機器構成、OSなど）,故障状況（どうなったか）

●修理品を梱包してください

・上で用意した物を修理品と一緒に梱包してください。
・輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材にて梱包してください。
　※ご購入時の箱・梱包材がない場合は、厳重に梱包してください。

●修理をご依頼ください

・修理は下の送付先までお送りくださいますようお願いいたします。
　※ 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様ご負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
・送付の際は、紛失等を避けるため、宅配便か書留郵便小包でお送りください。

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

修理品の返送

・修理品到着後、通常約１週間ほどで弊社より返送できます。
　※ただし、有料の場合や、修理内容によっては、時間がかかる場合があります。

WN-B11/USBS 取扱説明書
2002.10.16　122048-01
発 行　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町３丁目１０番地

© 2002 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。